日本古代文字考

落合直澄著

上

ホ 2
4949
1

落合直澄著

日本古代文字考

小槇舎蔵版

序

もじと以ふ物は。言をのするもの〳〵に。理あるものなれはいにしへよりこそ。そのあるかなしかにつきて。天地のはじめよりしかるへし。古へはありきなとも。また人てかきうつさむことはなかりし。それ。手にとりたることありては。言葉つらねよろしき事。世にありしのちいそうなとも。人は物にかきとめし。詞とのあることは。かくて見つゝ。解きあてゝありけるは。いとも斉しきこともあり。理あるものなれはといま言はともに。茂の理あるは。音のかはるにて。こゝろよ頭なれ。ことさらに直ることはたりては。水はたちそよりてよ

門 本2 號 4949 卷 1
二 室 架 冊 號 函
大學 25.3.3

誠つゝ得ゐれ。いかゝ出て。いよゝつきせぬものあれいかり。
されいくまといふ。ゑらしてくれもむところこいうろくつ
はものこゝまれ。学ハ各まれ。各つきしくはれ以てつゝ。
くれものきものくこちはとおもれ。それはりくよつはて。ふさ
もしき器をといてくあれいこのかゞのとともしさる器
のひとつまて。物はかきこしまきをもるし。かつきれ
もきをさくあむこいかあらもおくていかるも返相まそ
ありはれ。蔵舎直派ぬしいかるいくりのかきくく
ありはれいこのとしころかむかへさるまて。昔はかゞの
もとより。さまし後をあけ。今はうつくにつくもるかく

まて。もるゝ隈なくひきいくし。つもらはときもあし
されいいまし。くはとゝは暗くかゞはありあしもら。もら
さる紀事こい。一かりはまをくき工事あらましと。はれあれ
るものうら。さまれ外にいふもあられいはさくう字は
ありこちと。もるしはれこれるむねとを。きくそくてやりし
いこは。当はあれるよろこれをしいかはてかり

明治廿一年六月

田中頼庸識

蔵舎直文書

日本古代文字考

緒言

一古來古字ノ説多シト雖モ日文傳ノ上ニ出ルモノナシ。今日文傳ヲ根據トシ金石字等ヲ証トシ字源字父母ヨリ字子組織ノ理ニ至ルマデ我考ノ及ブ限リ心緒ヲ盡スト雖モ猶杜撰ノ罪ヲ免レザラムトス。庶幾ハ識者ノ訂正アラムコトヲ。

一鶴峰氏ノ鍥木文字考ハ唯アナイチ字一体ヲ擧ゲテ之ガ解ヲ加ヘタルノミナレド字源ノ端緒ヲ開カレタルハ此書ヲ以テ始メトス。

一田中翁ノ神字考ハ古字ノ傳來及ビ古今ノ諸説ヲ網羅シテ載ラレタリ。傳記諸説ヲ見ムトセバ此書ニ由ルベシ。

一日文傳附錄疑字篇ノ中ニ字源字母アリ。又他ニ徵証アリテ正体ト認ムルモノハ取リ異様ニシテ其体不整ナルハ捨ツ。

一字源ヨリ字父母成リ字父母ヨリ字子ノ生リテ五十音圖ノ成レル理ニ於テハ諸体同一ナリ。唯對馬字齊部字ノミ字源アリテ字父母ナシ。又豐國字ハ象形字ナレバ此類ニアラズ。

一此書ニ載スル所其体十二種ナリ。之ヲ約レバト兆字象形字ノ二種ニ止マル。

一古字ニ何神ノ所傳何々等ノ奥書アルモノハ好事家ノ所為ト思ハルヽモノ鮮カラザレバ一二ヲ載セテ其他ハ惣テ略ス。カクノ如キ奥書ニ頼ラムヨリハ寧ロ字ノ組織ヨリト兆ノ根元ヲ探ラバ字ノ成立セシ時代モ大凡想像セラルベシ。

一字ノ遺存地及ビ傳者人名ヲ从テ字体ノ名稱トセルハ意アルニアラズ。唯便利ニ從フナリ。

一英雄人ヲ欺クノ語アレド姧曲者英雄ヲ欺クモ鮮シトセズ。傳附錄所載上宮太子壓尺弘仁歷運記考ニ所載上野國宗永寺所藏銅鐸其物ハ有レ𠂤古字体ナルモノヲ載セラレタルバ虚妄ナリ。是レ姧曲者平田翁ヲ欺キシモノナルベシ。豈恐レザルベケンヤ。

一書中傳ト記セルハ日文傳ナリ。考ト記セルハ神字考ナリ。

明治二十一年五月一日　落合直澄識

日本古代文字考巻之上

落合直澄著

●第一章傳記諸說

凡ソ字ヲ作ル者天然ノ音韻ニ原（モトヅ）カザルナキハ萬國同一轍ナルガ如シ。獨リ漢土每事每物ニ字ヲ作リ其數幾萬其体幾萬未ダ悉ク網羅セル字書ナシト。我邦亞細亞ノ東ニアリ漢土トノ關係最モ大ニシテ益ヲ得ル最モ多シトス。然レ𪜈我邦固有ノ簡易ナル文字ヲ捨テ歷史其佗悉ク煩雜ナル漢字ヲ以テ之ヲ記シ人智ヲ退縮セシメシコト亦僅少ナラズ。今其弊ヲ矯（タヾ）メントスルモ如何トモスル能ハザルナリ。然シテ近來我邦人各國ノ學術ヲ研窮スル者頗ル多シト雖。我古字ノ如キニ至テハ措テ論ゼザル者ノ如シ。然

ルニ近時清國沈文燮ハ日本神字考ヲ著シ我邦ノ古字ヲ以テ悉ク漢土ノ古字ニ附會シ其解ヲ下セリ。英人チヤンバレンモ亦我古字ヲ論ジテ終ニ上古文字ナシノ論ニ帰セリ。然レ𪜈時々諸國ヨリ異体ノ文字ノ出ル有テ世ノ學者半信半疑ノ念ヲ免レザルナリ。直澄案ズルニ上古文字ナシトスル説甚不當ナリトス。如何トナレバ陸奥ニ南部暦ト稱スル者アリ。異体ノ數字物体畫ヲ插入シテ無智ノ人民ニ月日ヲ知ラシム。世ニ之ヲ盲目暦ト云。芝浦漁人文字モ此類ノモノカ。安齋叢書ニ見エタリ。常陸久慈郡安寺持方村ハ深谷ノ間ニアリ。天明中僅ニ十戸ニシテ人民質朴世事ニ通ゼザル者ノ如シ。然レ𪜈方圓或ハ縦横線ノ數字有テ公租等ヲ誤ルコトナシト。世ニ之ヲ盲目帳ト云。太

古字

古ニ在テハト者最智識アル者ナラム。然リ。我上古ノ文字ヲ考フルニト兆字ハ自ラ深遠ノ理ヲ備ヘタレド象形字ニ至テハ兒戯ノミ。漢土ノ文字モ亦然リ。馬蹏ヲ見テハ其形ヲ畫キ日月ヲ見テハ其形ヲ記スニ過ギズ。後世ニ至テ漸ク文字ヲ貴重シ之ガ筆法ヲ説キ之ガ書体ヲ論ズルガ如キハ作者ノ意想外ニ出タルモノナルベシ。文字ヲ作ルハカクノ如ク易シ。イカニ人民蒙昧ナリト雖。上天子アリ。下萬民アリ。治世千歳豈文字ナキノ理アラムヤ。

日本紀鈔明注曰。帝王本紀多有古字。撰集人屢經遷易。後世人習讀以意刊改傳寫既多遂致舛雜。

此文ニ古字ト稱スルハ天武紀ノ新字ニ對シテ我古字タルヲ知ルベシ。

新字四十四巻

字体似梵字

考云。古字トハ我古字ヲ云フ。字ヲナト云物有レバ名アルハ天地ノ理ニシテ字ヲナト云モ物ノ名ヲ記ス器ナレバナリ。ミナハ真字ト云ガ如シ。欽明天皇ハ、今明治二十年ヲ去ル、凡一千三百年、

日本紀天武帝十一年三月曰。命境部連石積等。更肇俾造新字一部四十四巻。

私記曰。師説此書今在圖書寮。但其字躰頗似梵字。未詳其字義所准據。

此新字ヲ杣峠榊等ノ如キ漢字体ノモノナラムト云説アレド然ラズ。私記ニ似梵字トアレバ日文体ノ字ナルヲ知ルベシ。

古來神字ノ真体ヲ以テ史ヲ編纂セシト雖モ。字体混雜シ易ク遂致舛雜ト。欽明紀ニアルガ如クナレバ。此時真字ヲ和ゲテ草体ヲ作玉ヒシナルベシ。是新字ナリ。

此新字ヲ以テ史ヲ記シタルガ一部四十四巻トハナレルナルベシ。此前年ニ川嶋子等十二人ニ詔シテ令記定帝紀及上古諸事。大嶋子首執筆録焉。トアルハ漢文ヲ以テ史ヲ編纂セシメラレタルガ。帝ノ御心ニ叶ハザルガ故ニ又新字ヲ作リテ我古言ノマヽニ記サレタルナルベシ。

此新字史四十四巻未ダ成功ナラザル所ナドモアリ。文章ヲモ猶能調ヘムトンテ稗田阿礼ニ口傳シ玉フ程ニ。帝崩御トナリシカバ元明帝ノ世ニ至テ、太安麻呂之ヲ主トシテ、編纂シタルガ古事記ナリ、四十四巻ノ新字ハ。空ク圖書寮ノ寶物トナリテ多年ヲ經過シ。弘仁承平ノ頃ハ其世ノ學者モ讀ミ得ルモノモナキニ至リキ。

如此我古字ハ既ク廢レタレ𪜈。神社仏閣ニハ僅々存スルヲ得タリ。

日本紀弘仁初度私記云。飛鳥岡本宮朝。皇極帝 皇太子大好漢風而訖。難波長柄宮朝。孝徳帝 後岡本宮朝。斉明帝 近江大津宮朝。天智帝 四代之間。文人學士各競而帝紀。國記。及諸家記。氏々系譜等从漢字漫飜譯之。加私意誣人。殆欲絶先代舊辭本意。於是淨見原天皇。天武帝 愁滅其正實。更敕語舊辭而欲傳于後葉矣。雖然譯文横流史面全不能鐫之。弘仁八、今明治二十年ヲ去ル千七十餘年、

考云。从漢字飜譯之ト有ルニ目ヲ注グベシ。帝紀己下ノ記録の神世ナガラノ國字ニ書セル物ヲ文學士等ガ漢字ニ飜譯シタルヲ云ナリ。

日本紀承平私記曰。問假名之起當在何世哉。答。神功皇后从前

文書不傳。已無所見。至于應神天皇御宇遣使新羅招來文人。僅習文字。然則自彼御時可有之。承平八、今明治二十年ヲ去ル九百五十餘年、

又問假名字誰人所作哉。板本釋紀ニ此文ナシ、宮崎文庫本弁ニ密本私記ニヨル、答。師説。

大藏省御書中有肥人之字六七枚許。先帝於御書所令寫給其字皆用假名。或其字未明。或乃以等字明見之。若从彼可為始歟。

傳云。乃以ハ漢字ノ乃川ニアラズ。肥人書ニ乃以等ニ書ケル字アリテ漢字ノ乃川ニ似タルナリ。本朝書籍目錄ニ肥人書五卷薩人書■■トアリ。古字ヲ以テ五卷ニ書ケルモノアリシナルベシ。和訓栞一ニ。松下氏云。今西國人文字ノ異体ヲ謂テ肥後字ヲ書クト云ヘレバ弘法ヨリ从前ニ假字ノ字体ハアリシニヤ。

先師説云。漢字傳來我朝者應神天皇御宇也。於和字者其起可

和漢字

在神代歟。龜卜之術者起自神代古々無文字者豈可成ト哉。云
和字ハ龜トノ兆象ヨリ出タリ。故此語アリ。
三代實録貞観十三年四月ノ記ニ。忍見足尼命始自神代供
龜卜事。トアレバ欽明天皇紀ニ易博士。曆博士ノ交代及ビ
ト書曆本等ヲ送上セシムルヿヲ百濟ニ勅シタルハ。周易
等ノ書ニシテ龜トノ書ニ非ルヤ明ラケシ。
今案。假字本世有二部。其一部者和漢之字相雜用之。其一部者
專用假名倭言之類。云々
此處ニ假名本ト云ヘルハ假名日本紀ナリ。假字日本紀ニ
二部アリテ。一部ハ和字ト漢字トヲ雜ヘテ書ケルモノニ
テ今世片假名交ト云フ如キ書体ノモノナルベシ。又一部
ハ漢字假字ヲ書ケルモノニテ。即チ釋日本紀ニ引用セル

神代文字象形也

古字一万五千餘

假名日本紀ナルベシ。今世傳ハル所ノ平假名交リナル、假名日本紀ハ近世ノモノナリ、
神代巻口決。神代文字象形也。應神天皇御宇。異域書始來朝。至
推古天皇朝聖徳太子以漢字附日本字。後百有餘歳而成此書
焉。神代巻口決ハ、貞治年中忌部正通ノ記ス所ナリ、
神代文字象形也。トハ歴史綱鑑補云。書制有六。一曰象形。註
曰。象形謂日月之類。象日月形體而為之也。トアルガ如シ。我
古字ニモト兆字。象形字アリ。
吉田兼倶云。アイウエオノ五十字ハ神代ヨリアリ。神代ノ字
ハハカセノ根ナリ。家ノ秘書ニシテ出サズ。一万五千三百六
十字アリ。一向ニ解シ難シ。ハカセト云ガ神代ノ字ナリ。云云
龜ヲ焦ス時ニ五ニ割テ五行ニ配ス。變ニ依テ五万三千トナ
ル。兼倶ハ文明年中ノ人ナリ、○龜ヲ燋ス時云云五万三千トナル、ト云ハ兼倶ノ説ナレバ削除スベシ、

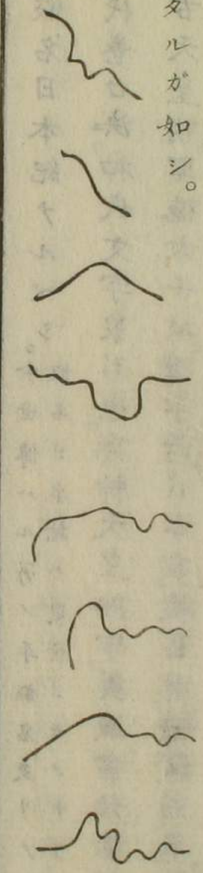
小槙舎蔵

船橋環翠曰。神代ノ文字ハ一万五千三百七十九字アリト云。聲明（シヤウメウ）ノハカセヲ附タル如クナル字ナリ。龜トヲスレバ其拆ヤウガ文字ノ体ナリト云吉田ノ秘事ナリ。環翠ハ天文頃ノ人也、吉田家ヨリ出テ船橋家ヲ繼グ○按ニ異体字一万餘アリト云ニ非ズ、日文字ヲ以テ記セルガ惣計一万餘アリトノ意ナルベシ、

吉田家ニ古字ヲ以テ一万五千有餘記載セシ書ヲ藏セシト見エタリ。前二條ハ神代巻抄ニ載スル所ナリ。

傳云。卜部家ノ舊説ニ神代字ハ節（フシ）ハカセヲ指タル様ナリ。ト云ヘルニヨク符（ア）ヘル書体アリ。樂家録ニ、節墨譜ト書テフシハカセト訓タリ、

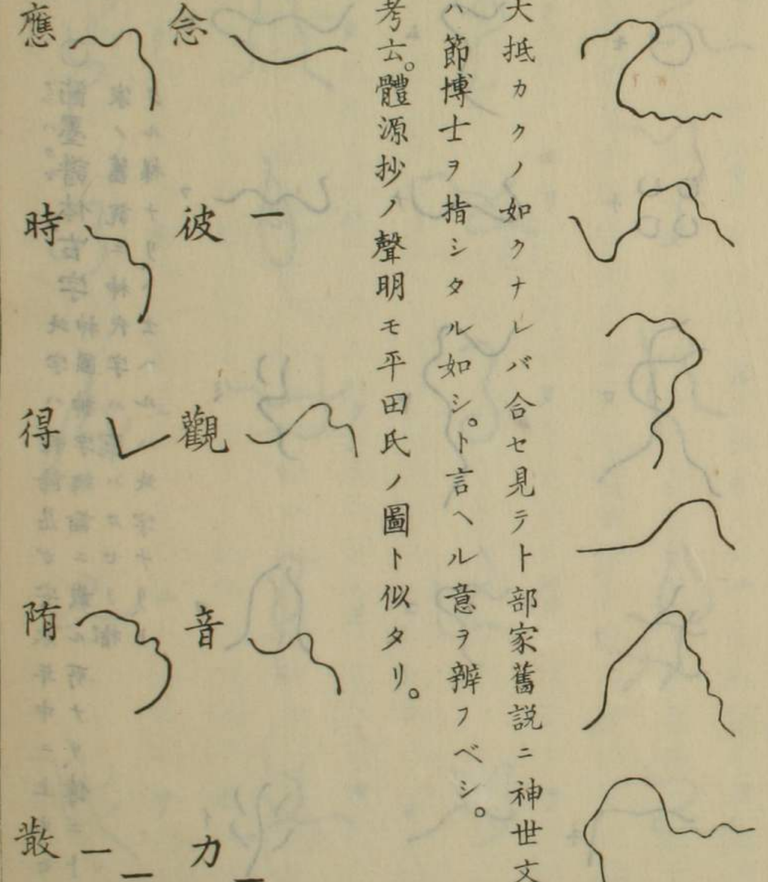
神樂催馬樂（カグラリイバラ）ナドノ古本ニ指セル節ハカセノ狀左ニ擧ゲタルガ如シ。



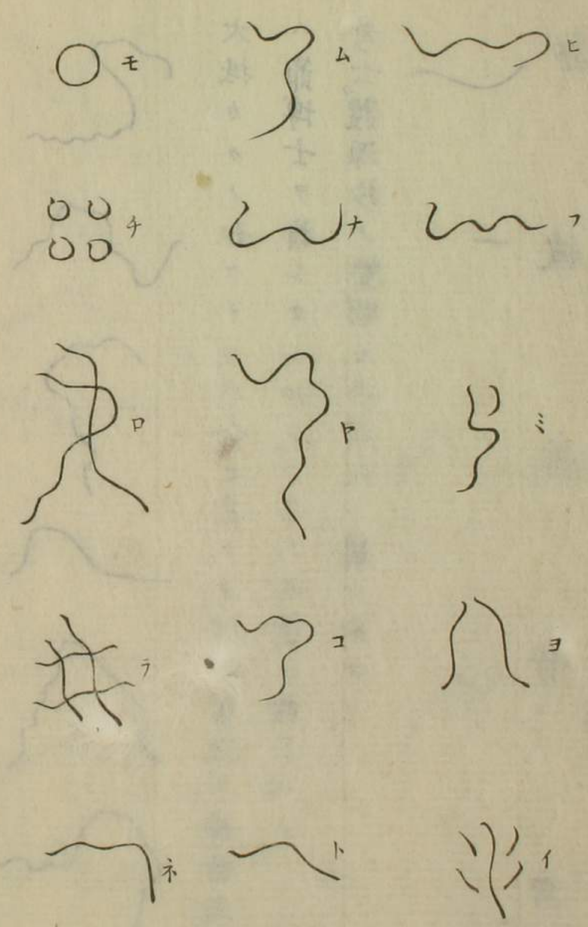
節（フシ）ハカセ

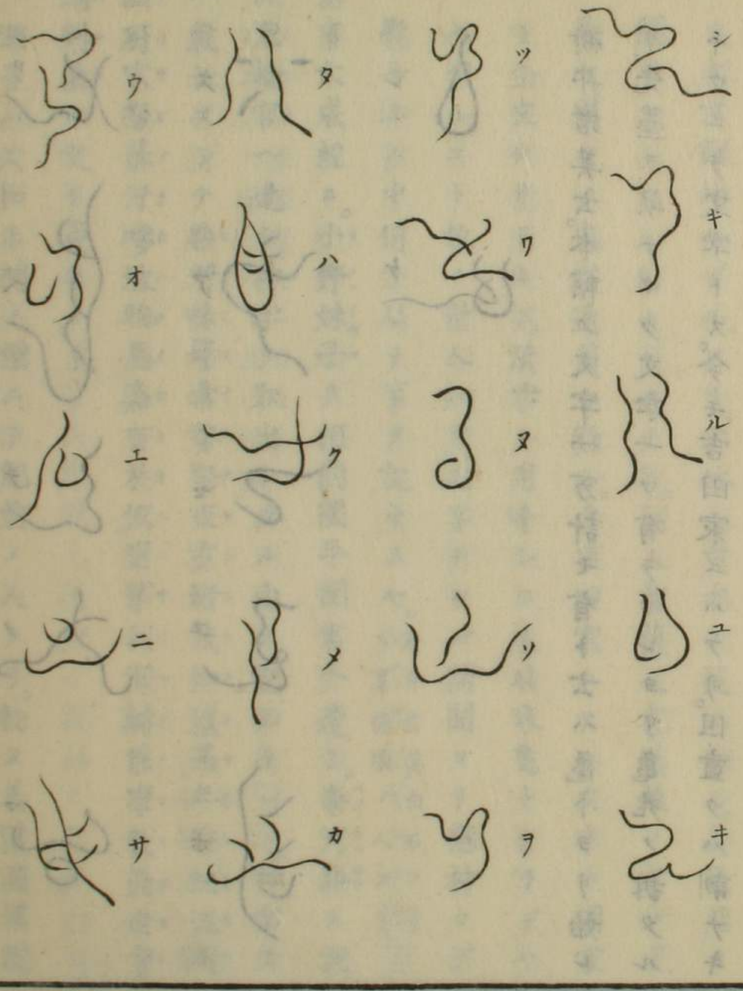
大抵カクノ如クナレバ合セ見テト部家舊説ニ神世文字ハ節博士ヲ指シタル如シ。ト言ヘル意ヲ辨フベシ。

考云。體源抄ノ聲明モ平田氏ノ圖ト似タリ。

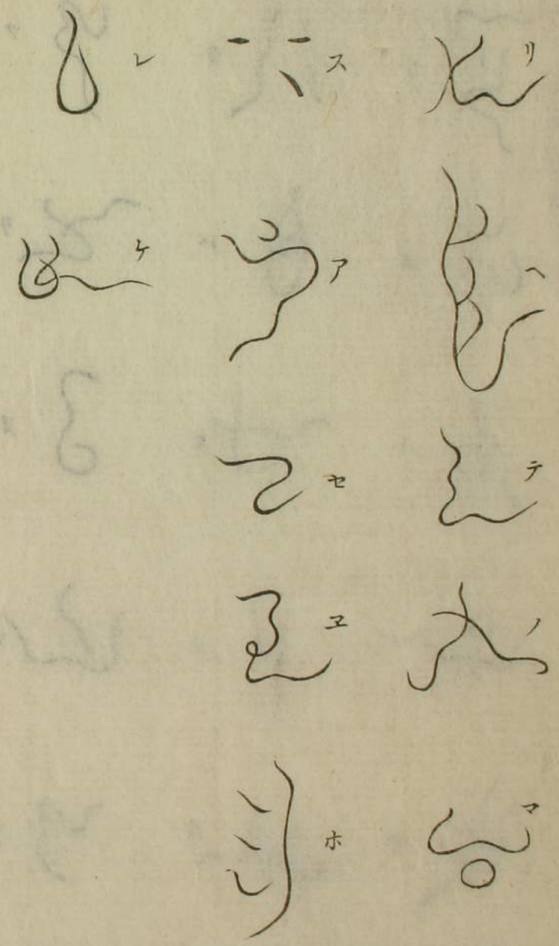


○節墨譜体ノ古字（フシハカセ）此字ハ釋諦忍ガ安永年中ニ上木セル家ノ舊説ニ神國神字辨論ニ載ル所ナリ、傳ニト部タル様ナリ、ト士ヘルハ此字ナリ、ト





新井君美説



新井君美云。本朝ノ文字一万計モ有ト云ハ亀トヨリ始レリ。先墨ヲ以テカク文字一ツ有テソレヨリ亀兆ノ拆タルヤウニテ文字トス。今モ吉田家ニハアリ。但盡クハ訓ナキカ。大方訓知レザルアリ。字体ハ古木ノ枝ノ如シ。是亀兆ノ開キ分レタル形ナレバナリ。肥人書薩人書尾張ノ字ナド是ハ國々ノ文字通用シ難シ。今吉田家ニアル文字ハ朝家ト仝文ナリシカド。漢字ヲ用ヰシヨリ以來亀トナラデハ入ザルコト故ニ世人知ズ。文字ナクバ開闢ヨリ應神マデ幾千年ノ中何ヲ以テ事ヲ記サムヤ。新井君美、白石ト号ス享保頃ノ人ナリ、

日文讀法

舊事大成經ニ。小野妹子ヲ河内國平岡宮ヘ遣シ。秦河勝ヲ泡洲泡輪宮ヘ遣シ。神字ヲ取出シタル由ヲ記シタレド。神字ヲバ載セズシテ柴普味譽彙務奈夜古堵茂知爐羅年紫紀流庾圍厨宓努蘇汙哆坡昫馬嘉有於依爾挲利汨轉能摩數亞世會餔列氣ノ文ヲ載セタリ。

潮音ハ天和年間ノ僧ニテ肥前ノ人ナリ。初メ美濃國黒瀧

舊事大成經偽造

山ニ住シ。後上野圓館林廣濟寺ニ住ス。伊勢カタ田ノ神主永野采女（ウネメ）等ト謀テ。舊事大成經ヲ偽造シ出板ス。其偽作タルヿ顯レテ采女ハ遠嶋セラレ。潮音モ遠嶋セラルベキノ處。桂昌院ノ皈依僧タルヲ以テ隱居申付ラル。（桂昌院ハ德川三代將軍家光公ノ妾ニシテ、名ハ秋野、四代將軍家綱公ノ母ナリ、）出版書肆豐嶋屋豐八ハ追放セラレタリ。潮音ハ如此邪僧ナレ𪜈。博覽多識ナル者ニテ廣ク古書ヲ探索シタル者ト見エタリ。小野妹子ヲ平岡宮ヘ遣シ。秦河勝ヲ泡宮ヘ遣シテ神字ヲ取出タリト云ハ。己ガ平岡神社阿波神社等ヨリ神字ヲ取出シタル事實ヲ。小野妹子秦河勝ノ事跡ニ偽造シタルモノナルベシ。然レ𪜈漢字ヲ以テ日文ノ讀法ヲ傳ヘタル書ヲ採出シヽハ。潮音ヲ以テ率先者ト云ハザルヲ得ズ。和漢三才圖ニ。或書曰。ト

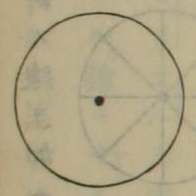
圓象中點

テ同文ヲ載セタリ。圖會、上木ハ舊事大成經ニ後ルヽコト三十年バカリナリ。或書ト云ハ何レノ書ニヤ詳ナラネド。大成經ヲサセルニハ非ルベシ。圖會、作者寺嶋良安イカデ大成經ノ偽書ナルヲ知ラザランヤ。且ツ潮音罰セラレ大成經滅板ノコトハ寺嶋氏壯年ノ時ナルヲヤ。

●第二章字源

我國ノ古字ハ象形文字ヲ除クノ外悉クト兆ノ圖ヨリ出タリ。ト兆ノ源ハ圓象中點ヨリ起レリ。今之ヲ圓象中點圖ト名ク。

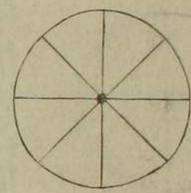
圓象中點



圓象八線

圓象八線

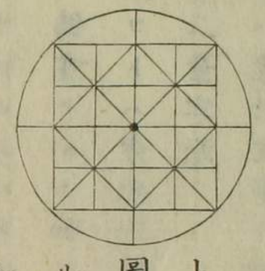
此圖ニ縦横斜ノ線ヲ加ヘテ今之ヲ圓象八線圖ト名ク。



真正兆圖

真正兆圖

兆圖ヲサスカリト云。龜甲鹿骨ニ火ヲサスト云ヿ語アルヨリ起レルナルベシ。和名抄ニ。天一神奈加美トアリ。ナカハ中央ノ



兆圖ヲサスカリト云。龜甲鹿骨ニ火ヲサスト云ヿ語アルヨリ起レルナルベシ。和名抄ニ。天一神サスカミトアリ。中黙ヨリ外方ヘサス義ニ象ル。六方ヘサスヲムサシト云ヒ。八方ヘサスヲヤサシト云。又佐須ハタツト通ズ。下ヨリ上ヘ指スヲ立ト云。縦ノ一節ニ節ヲヒトキリフタキリト云。限宇ヨリカギリト訓ムモ堺ヲナス義ナリ。切ハ限ノ活語ナリ。草ニハカリカルト云ヒ。木ニハコリコルト云フ横線ハ縦線ヲ断テ段ヲナシサスカリノ圖ナル。鎗ニサスマタアリ。鏃ニカリマタアリ。其狀カクノ如シ。擽アルナリ。萬葉集ニ武藏野ニトヘ象燒

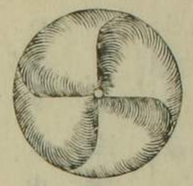
サスカリノ名義

サスカリノ名義

義ニシテ天眞中主神ヨリ出タル訓ナルベシ。卽ト兆ノ中黙ニ象ル。和訓栞ニ。天一神サスカミトアリ。中黙ヨリ外方ヘサス義ニ象ル。六方ヘサスヲムサシト云ヒ。八方ヘサスヲヤサシト云。又佐須ハタツト通ズ。下ヨリ上ヘ指スヲ立ト云。縦ノ一節ニ節ヲヒトキリフタキリト云。限宇ヨリカギリト訓ムモ堺ヲナス義ナリ。切ハ限ノ活語ナリ。草ニハカリカルト云ヒ。木ニハコリコルト云フ横線ハ縦線ヲ断テ段ヲナシサスカリノ圖ナル。鎗ニサスマタアリ。鏃ニカリマタアリ。其狀カクノ如シ。擽アルナリ。萬葉集ニ武藏野ニトヘ象燒

兆形回毛

ノ歌アリ。ムサシハト兆ノ縁語ナルヲ以テトニ冠セシナラム。サスカリハ兆圖ナリ。マチガタノ語ハト書ニ見エタレド姓氏録ニ。允恭天皇ノ世ニ額ニ町形廻毛アル馬ヲ獻リテ。額田ノ姓ヲ賜リシヿアリ。又天皇勅曰。此馬額如田町。ト兆圖ハ田字形ヨリ起レルモノナルヲ知ルベシ。此圖萬事ノ法トナル。先ヅ形ヲ作ルヲヒナガタト云ヒ。体ノ法ニ叶ヘルヲスガタカタチト云ヒ。字書ニ云。



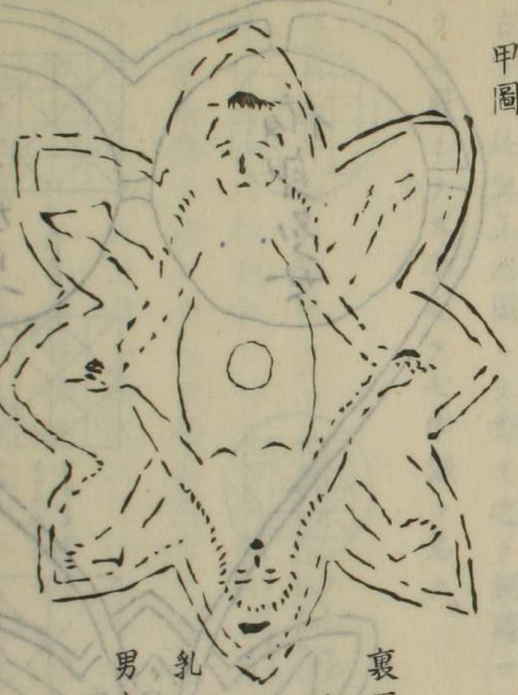
町形回毛カクノ如クナルベシ。

以土曰型。以木曰模。以竹曰笵。笵法也。式也。ト有ルガ如シト方モ亦此圖ヲ以テ法トス。サスカリ兆形ノ起原ノ理ヲ知ラムトセバ。左ノ圖ヲ熟覽スベシ。

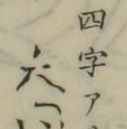
○ト兆器 下野宇都宮ニ荒神社藏。銅製

兆形起源圖

甲圖



裏面ニ左ノ四字アリ

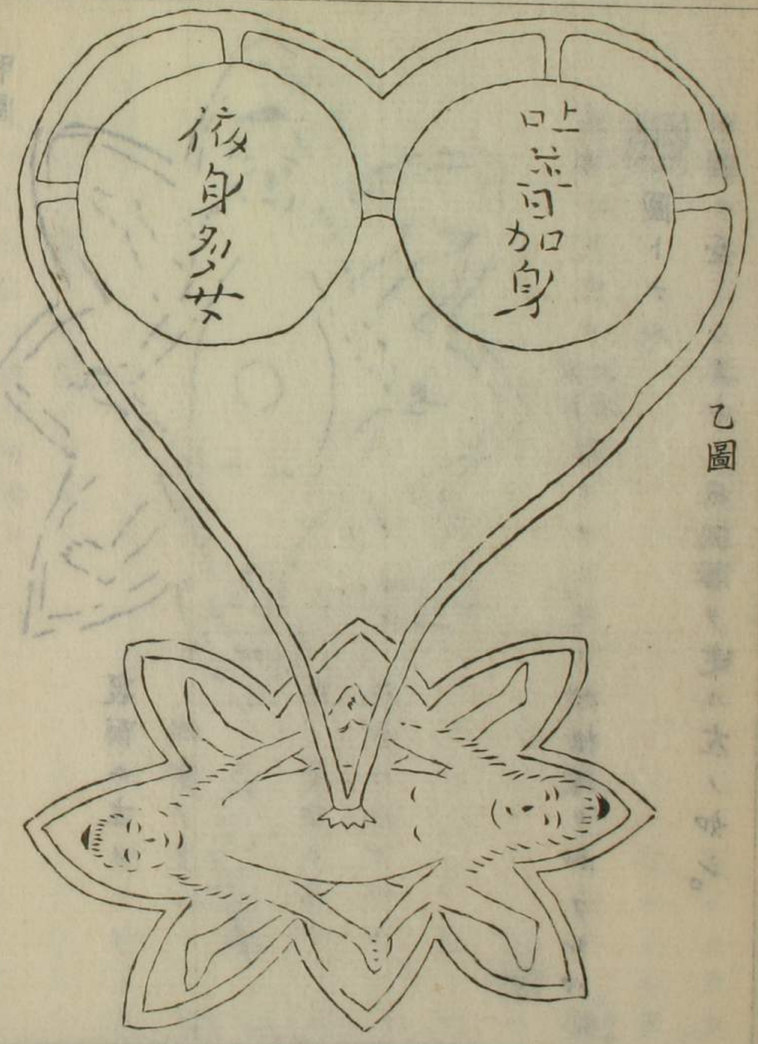


乳ノ有無ヲ以テ男女ヲ分ツベシ

此圖手足交テ×××形ヲナス。之ニ縱横線ヲ加フレバ

圖トナル。

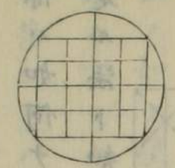
甲圖ヲ臺トシ其中ニ兆詞器ヲ建ル左ノ如シ。

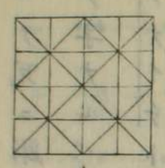


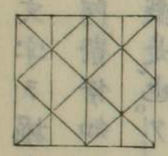
乙圖

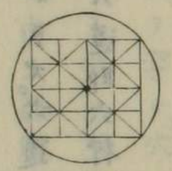
七字源

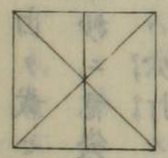
古字ハ此眞正兆圖ニテ悉ク之ヲ網羅セリ。然シテ字源ヲ分テ七圖トナス。今之ヲ七字源ト名ク。

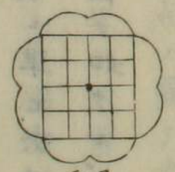

ツクシモシ


イムベモジ


タネコモジ
モリツネモジ


アヒルモジ
イヨモジ
アイノモジ


ムサシモジ


コレタリモジ

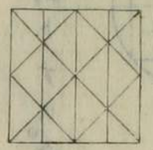
ツシマモジ

古字其体多種ナリト雖。此七字原ニ出ザルナキハ追章ニ述ル所ヲ見テ知ルベシ。

●第三章六行成字（ムサシモジ）

阿奈伊知字今改テ六行成字ト名ク。阿奈伊知字ハ傳附錄鍬木神字考等ニ載ヤタリ。此字阿波國阿波神社ニモ傳ヘタリ。ト見エタルガ和訓栞ニ河内國枚岡神社。大和國忌部神社等ニテ瓦ニ彫リシ文字ヲ堀出シヽ由ヲ載セタリ。是レ此アナイチ字ナルベシ。○阿奈伊知ハ和名抄ニ意錢和名世尓宇知トアリ。今アナイチト云ヘルハ穴打ノ義ナリ。和漢三才圖會意錢ノ條ニ。近世有ニ鍋嶋閑保六道等數品トアリ。鍋嶋閑保ハ如何ナル法ニヤ知ラズ。六道ハ八道行成ニ準ヒ六道ヲ走ル法ト知ラレタリ。六道即六行成ハ左ノ図ノ如ナルベシ

六行成圖



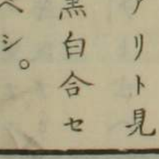
宇陀氏云。大和ニテハアナイチノ法左ノ如シ。

壁垣

○穴

△兒童此所ニ立テ錢ヲ投ツナリ、

圖ノ如ク壁垣ノ前ニ穴ヲ穿チ。穴ノ前ニ六行成ノ圖ヲ畫キ。錢ノ穴ニ入ルヲ大勝トシ。錢ノ壁垣ニ觸レテ反テ穴前ノ圖ニ落ツレバ線ノ所々ニ由テ勝敗アリト云。○三才圖會ニ云。一種六行成ナルモノアリ。碁子黒白各三ツ九舍ヲ走ル。



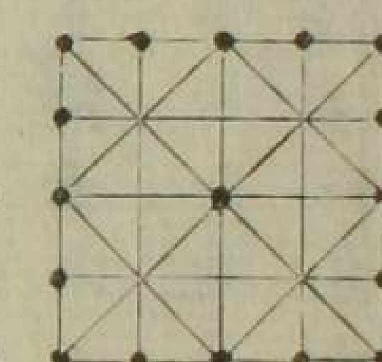
九舍ハ如此ナレバ六行成ニ如此圖モアリト見エタリ。同士三ツ相連ルヲ勝トス。碁子黒白合セテ六ナレハ之ヲモ六行成ト云フナルベシ。

八道行成（ヤサスカリ）品文ニ出ヅ、和名抄ニ。八道行成涅槃經聖行賀利トアリ。夜佐須トアリ。夜佐須ハ八道ヲ指ス義ナリ。俗ニ將碁ヲサストト云フサスニ同ジ、ヤサスカリヲ洋語トスル說アリ取ラズ、今俗ニ十六ムサシトト云。三才圖會ニ云。十六士卒一カ士ヲ

カリ樗蒲ノ名トナル

中ニ圍テ之ヲ攻ム。力士八道ヲ行テ二卒ヲ左右ニ挾テ之ヲ屠ル士卒相聯テ力士ヲ逐フ。力士行道ヲ失テ斃ル。賀利ハ樗

和漢三才圖會八道（ヤサ）行成（スカリ）圖



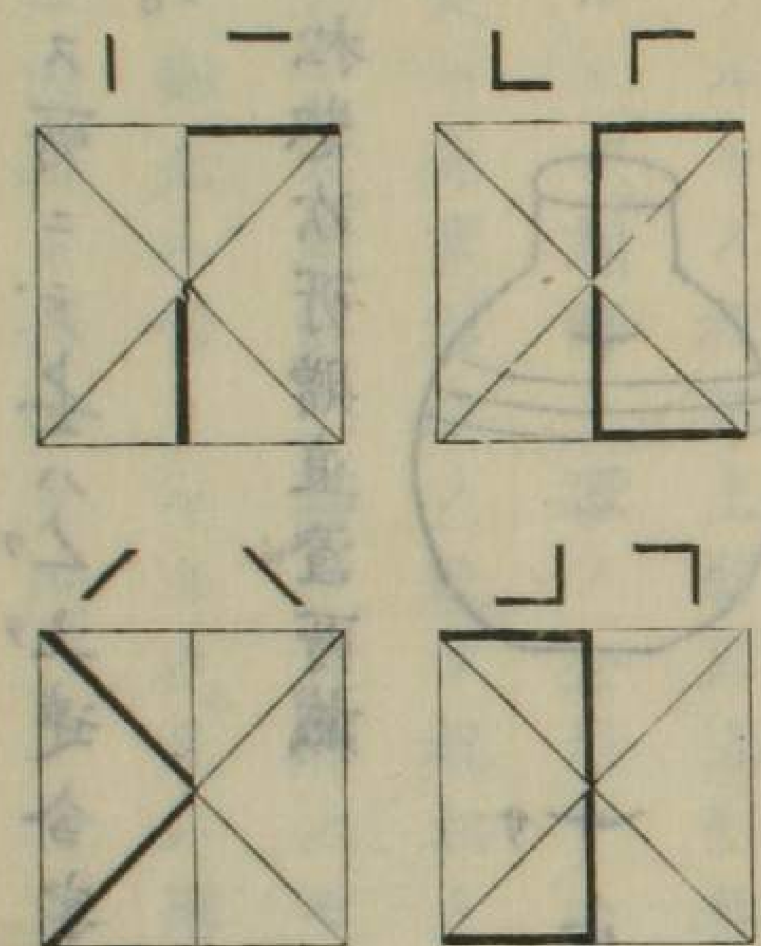
或人云、武藏、多摩郡邊ニテハ兒童集テ地上ニ此ヤサスカリノ圖ヲ畫シ、始メ中央ニ一錢ヲ置キ、之レニ錢ヲ投チ、錢ノ重ナルヲ最勝トシ、種々ナル勝敗アリ、之ヲアナイチト云ト、

蒲ナリ。和名抄ニ樗蒲（和名賀利字知）トアリ。俗ニチヨボイチト云ヘリ。以上論ズル所ヲ以テ夜佐須弁佐志ハ其源同物ニシテ阿奈伊知圖ハ六行成ヨリ出タルヿヲ知ルベシ。然シテ此戲ハ印度ニ始リ千年以前我邦ニ傳ハリシモノナルガ。我龜トノ兆象ニ符合セルモノニシテ。和字ノ字源モ此圖ニ外ナラズ。故ニ我古字ヲ阿奈伊知トハ名ヅケシナルベシ。阿奈伊知字數体アリ。河内國ヨリ出タルモ其一種ナルベシ。是阿奈伊知

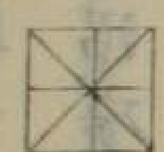
六行成字字源及組織

字ヲ六行成字（ムサシモジ）ト名ヅケシ所以ナリ。

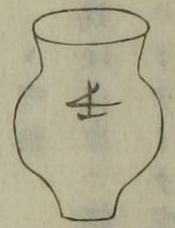
○字源及五十音圖



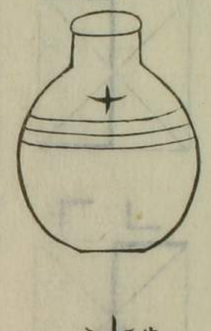
、中點

鶴峰戊申ノ鍥木文字考ニアナイチ字ハ  ノ圖ヨリ出タリト。

下野土器字

○日光二荒山神社所藏明治十年柿沼廣身吉田利平等山頂ニ於テ見出ス所ニテ  ハ∠ワ⊥ラ連合字ナリ。

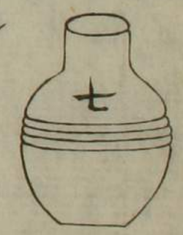
○小松惣次所贈直澄所藏



十サ字

七。十。等漢土ノ數字ノ如クナレド然ラズ。二荒山瓮字。駿河地方祝部土器ノ字ヲ以テ徴スベシ。是等ノ字ハ皆六行成字也。

○下野河内郡鶴田村小松惣次所藏



七シ字

○駿河地方祝部(イハヒベ)土器圖說 東京人類學會報告第十七号

山中笑氏記ノ略曰。靜岡近在ノ地ニハ朝鮮土器。即裏面ニ渦形アルモノ祝部(イハヒベ)土器。即渦形無キ土器ノ破片ハ澤山ニ見出サルヽガ。朝鮮土器ノ全形ノモノヲ堀出シタルハ誠ニ稀ニテ。是ハ元來製造ノ數ガ祝部土器ヨリ少キ故ト考ヘラル。夫レ耳ナラズ。朝鮮土器ハ大形ノモノ多ケレバ。堀出ス時意ナキ者ノ鍬先ニ當リヤスク。又ハ地中ニテ大石ニ壓レテ破レタルニ因ルト考ヘラル。

祝部土器ノ中ニテ。最數多ク堀出ルハ一圖ノ形ニテ。大サ蓋トモ高サ二寸程。徑三寸餘ノモノナリ。同樣ナル大サニテ二圖ノ如キ蓋ニ鈕ノ付タルハ少ナシ。三圖ノ如キ高サ二寸。徑五寸餘ノモノモ多シ。

駿河地方土器字

一圖ヨリ六圖マデノ土器ノ中ニ。一種窰印（カマジルシ）トモ云ベキ印ノ蓋ニモ底ニモアルモアリ。松葉形井字形十字形ナドニテ我見シハ七圖ニ示ス。五ツノ印疵ニテ陶工ノ印カ。窰ニ入ルヽ時燒ノ出來ヌ為カ。サテハ同形ノモノニテ。シルシナキモノアレバ飾カ。飾ナレバ見ユル所ニ付クベキニ。底裏ニ在ルハ何ノ為カ。以上

窰印

直澄案ニ。是レ我（カ）古字ニシテ六行成字齋部字等ニ由テ十米（サナ）井米（イラホ）ヘト訓ムベシ。伊羅保ハ土器ノ名ナリ。古イラホ朝鮮イラホ黄イラホ御本イラホ南蠻イラホ玄悦イラホ等アリ。委クハ別ニ云ベシ。

梅軒陶器考等ニ由テ考フルニ

窰印（カマジルシ）ニ種々ノ字アリ。備前尹部薄作ニ丅。備前ノカヤ壺ニ×。同茶入ニ乚三。諸燒モノニ七ノ字等アリ。伊賀形耳付建水窰印ニ十。印度陶器筒水サシノ上ノ方ニホソキ筋アリ。胴ニ丫ノ押ガタアルアリ。澁金氣藥肩衝乚胴ニ圖ノ如ク篦目（ヘラメ）アリ。如此陶器ノ字ハ我邦古來ノ法則ニ由レルガ如シ。印度陶器トアルハ猶朝鮮器ニハアラザルカ。丫ハ諺文ナルベシ。陶器ヲ見サレバ判ジガタシ。呂宋陶器ニ窰印

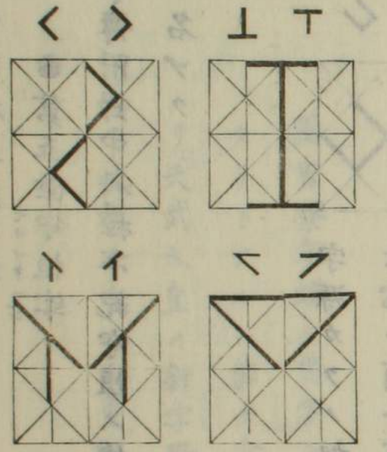
ナシ。窰印アルハ我邦人呂宋ニ入テ陶器ヲ作リシヿアレバ。我邦人ノ作ナルベシト云。後世我陶工ノ窰印ニ異体ノ字ヲ用ルハ。古來ノ慣習法ニ由ルモノカ。京燒ノ中ニ有來新兵衛窰印ニ丁。て三。（備前窰印ニ由ルモノヽ如シ）中田川光存ハ[illegible]。[illegible]（光字ヲ松葉形ニ作ル、）宗伯ハ〇。茂右エ門ハ[illegible]等ノ窰印アリ。是レ古字ヨリ出タルコト明ケシ。然レ𪜈此世ノ人故事ヲ明ニシテ如此印ヲ用ヰシモノニ非ズ。唯習慣法ニ由ルモノナルベシ。後世家々ノ定紋ノ如キ。角力者俳優者ノ代々類似ノ名ヲ付ルガ如キ。酒商ノ杉丸ノ招牌ノ如キ。其理由ヲ知テ之ヲ行フ者ハ鮮シ。唯習慣ニ由ル者ナルガ如シ。備前尹部ハ齋部氏ニ由アルカ。陶器字ハ多ク齋部字ヲ用ウ。崇神紀ニ忌瓮ト書キテイムベイハヒベ両訓アリ。イハヒハイマヒノ轉語ニテ猶イムト同語ナリ。

●第四章種子字（タネコモジ）

此字ハ傳附録ニ天種子命神代文字トノミアリト云。

○字源及五十音

種子字字源及組織

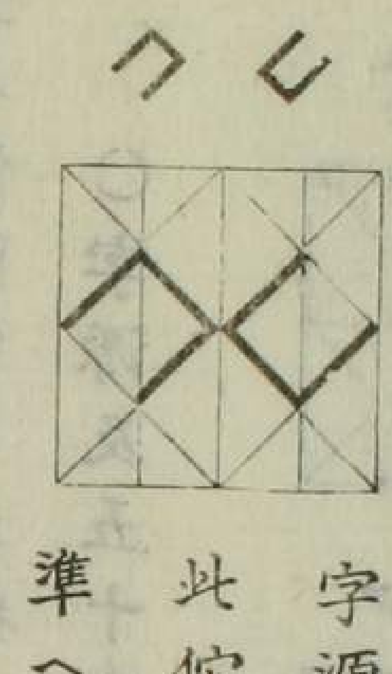


㇀	㇁	㇂	㇃	㇄	㇅	㇆	㇇	㇈
㇀	㇁	㇂	㇃	㇄	㇅	㇆	㇇	㇈
㇀	㇁	㇂	㇃	㇄	㇅	㇆	㇇	㇈
㇀	㇁	㇂	㇃	㇄	㇅	㇆	㇇	㇈
㇀	㇁	㇂	㇃	㇄	㇅	㇆	㇇	㇈

唯終行正則ニ違ヘリ

●第五章守恒字（モリツネモジ）

此字傳附録中村松亭紀守恒ノ傳フル所ナリト云。由テ守恒字ト名ヅク

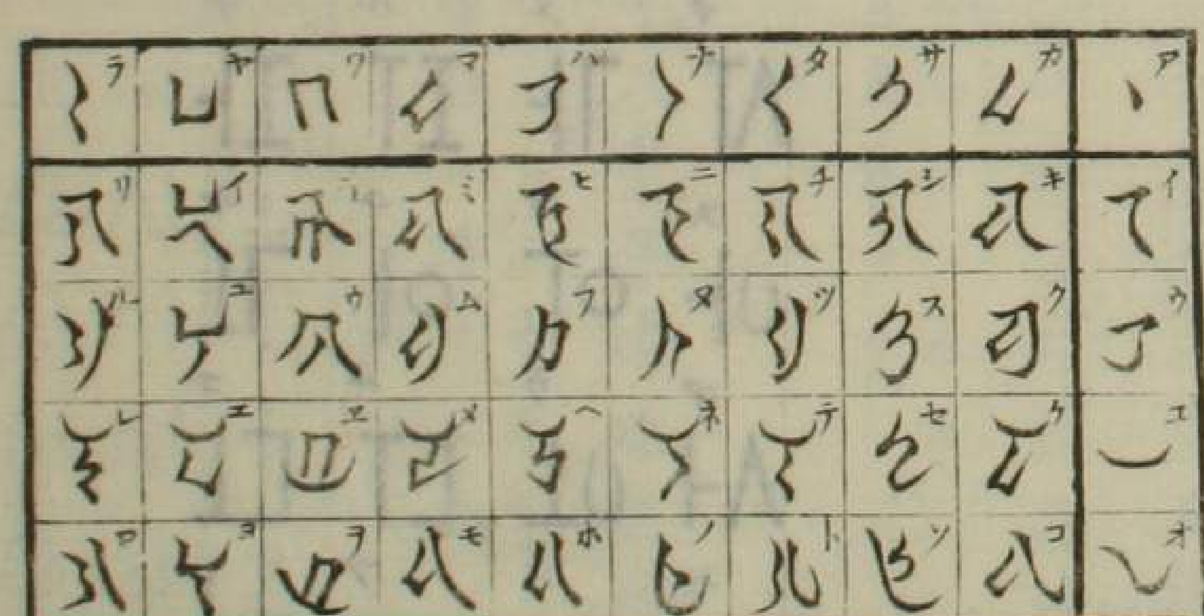


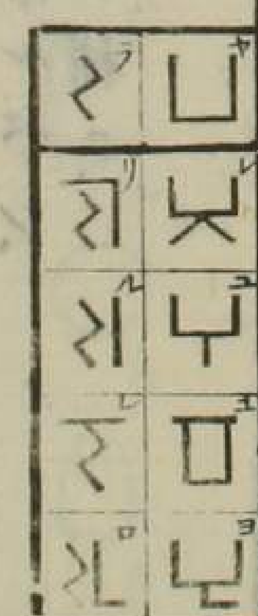
字源カクノ如シ。此佗ハ前二章ニ準ヘテ解スベシ。

此行ヲモ字母トス

〇草体守恒字

圖書寮字頗ル梵字ニ似タリトアルニ能ク合ヘリ。天武天皇ノ新字恐クハ此字ナラムモ量難シ。

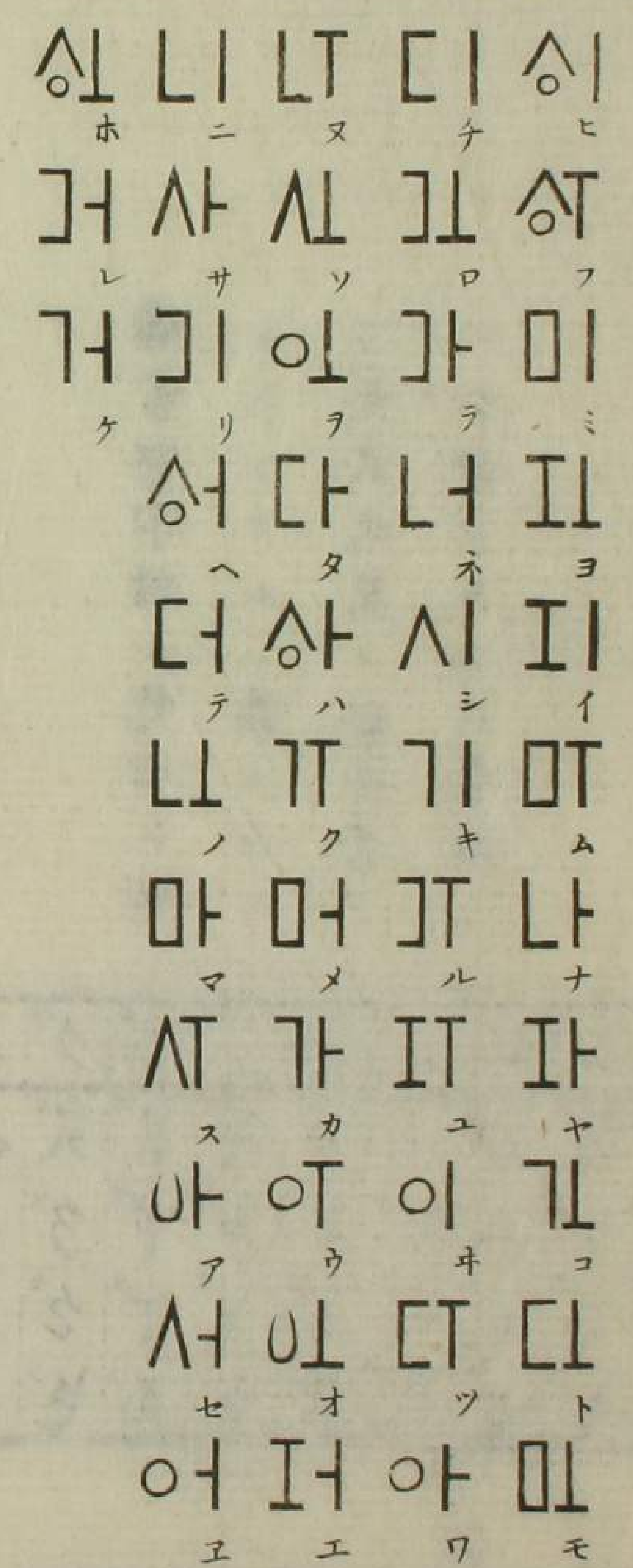




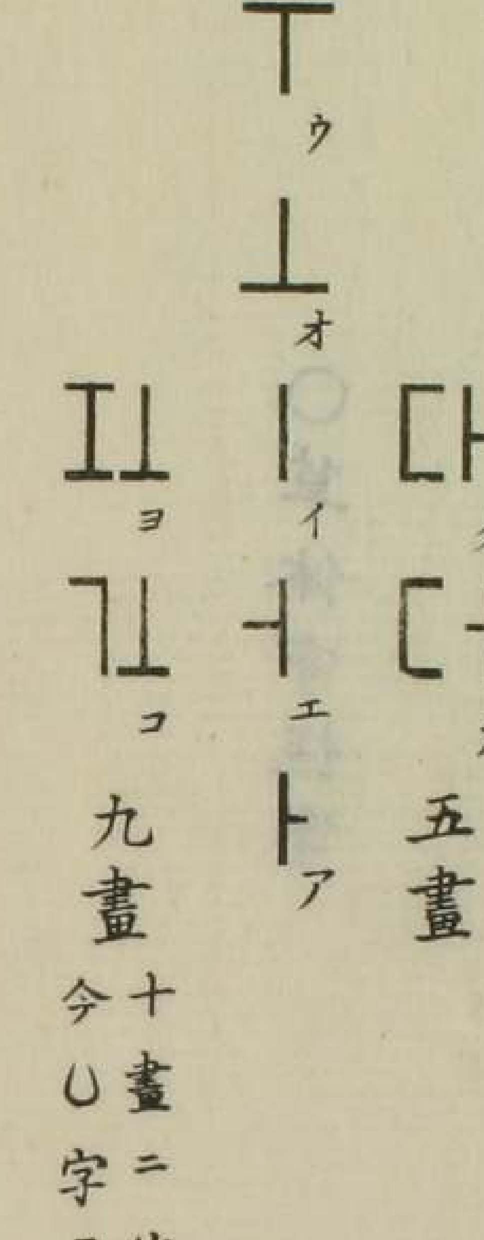
第六章阿比留字

日文四十七言

日文



日文字母



五畫

九畫

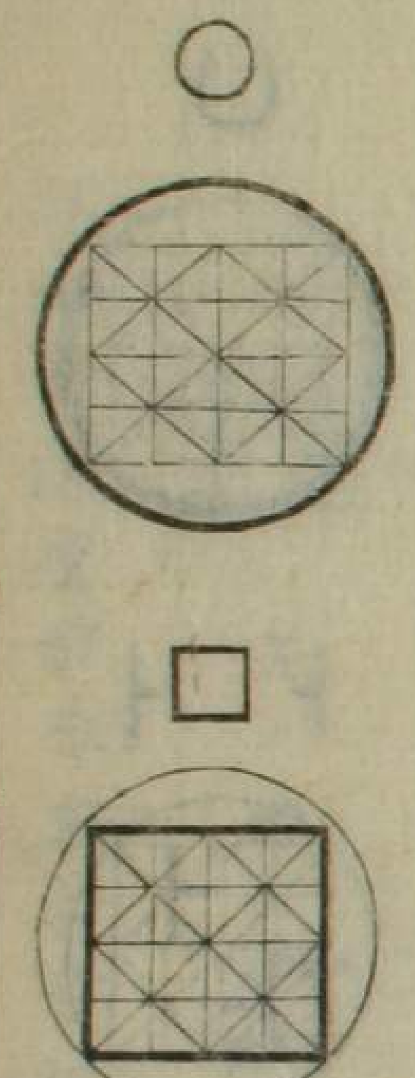
十畫ニ作ルベシ、今〇字ヲ補フ、

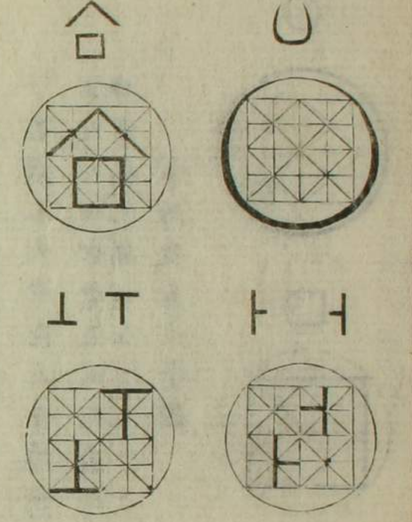
右神代四十七音字者。天兒屋根命之眞傳也。對馬國卜部阿比留氏内々傳之可秘焉。○一本云。右日文四十七言者。日神勅天思兼命所作云。一本、マタ一本モ同ジ與書ナリ、○一本云。右神世行文。中古所謂肥人書也。

下総國人大中臣正幸傳源八重平。八重平傳之政文者也。

政文ハ會津家臣大竹喜三郎ト云ヘリ、八重平ハ伊奈見左膳ト云シ人ニテ、明和安永ノ頃ノ人也、

○字源及五十音圖





○縱体阿比留字

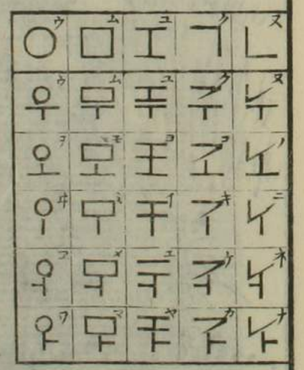
此字前文ニ同ジ。

前文ハ横連合ニシテ此字ハ縱連

ㇾ	ㇿ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ
	ㇿ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ
ㇾ	ㇿ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ
	ㇿ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ
ㇾ	ㇿ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ

父/母					
ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ
ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ
ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ
ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ
ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ
ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ	ㇾ

合ナリ。字原モ前文ニ同ジ。



右神世字。天思兼命所撰云。對馬國卜部阿比留中務傳之。

○一本云。右日文者。日神勅思兼命所製也。筆法祕傳者。筆意。把筆。運筆。全假。離合。廣文。縮文。以上七條。卜部家口傳有之。

神田孝平氏珍藏ノ石劍頭ニ左ノ二字ヲ彫刻セリ

トノ字

日文

ノ異体

下野下都賀郡赤麻(アカマ)村古塚古字

赤麻村古碑字

下野國下都賀郡赤麻村字北坪山、野井吉右エ門邸地續、平林中古墳、巨石三枚ヲ以テ蓋トシ蓋ノ中ノ石ハ墳ノ上ニ拔出タリ、何レモ五尺計ナリ明治十八年ヲ距ル凡ソ二百年計以前ニ堀出シタル由、刀劍金環勾玉ノ類數多ヲ藏セリト云、明治十九年四月

下野國沼人
赫沼廣身記

内藤寉寂

明治二十一年二月下野堅木驛海老沼友喜ニ乞ヒテ石摺トシ此ニ縮寫セルナリ

四尺九寸

連合体 T(ウツ)くつ(ル)へ(ト) 遷所ナルベシ

○阿比留字草体

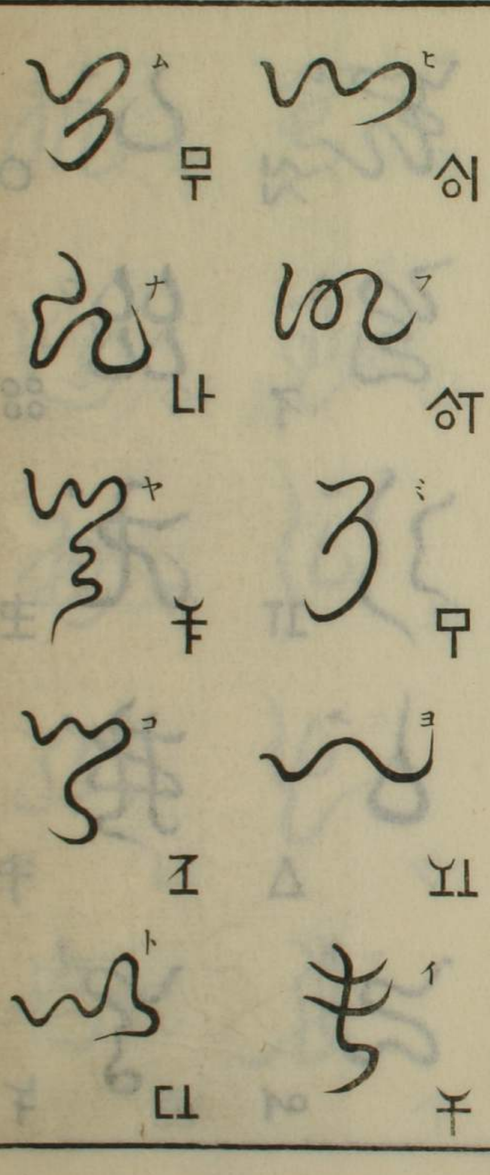
武藏國畔切(アキルノ)神社銅鍬古字

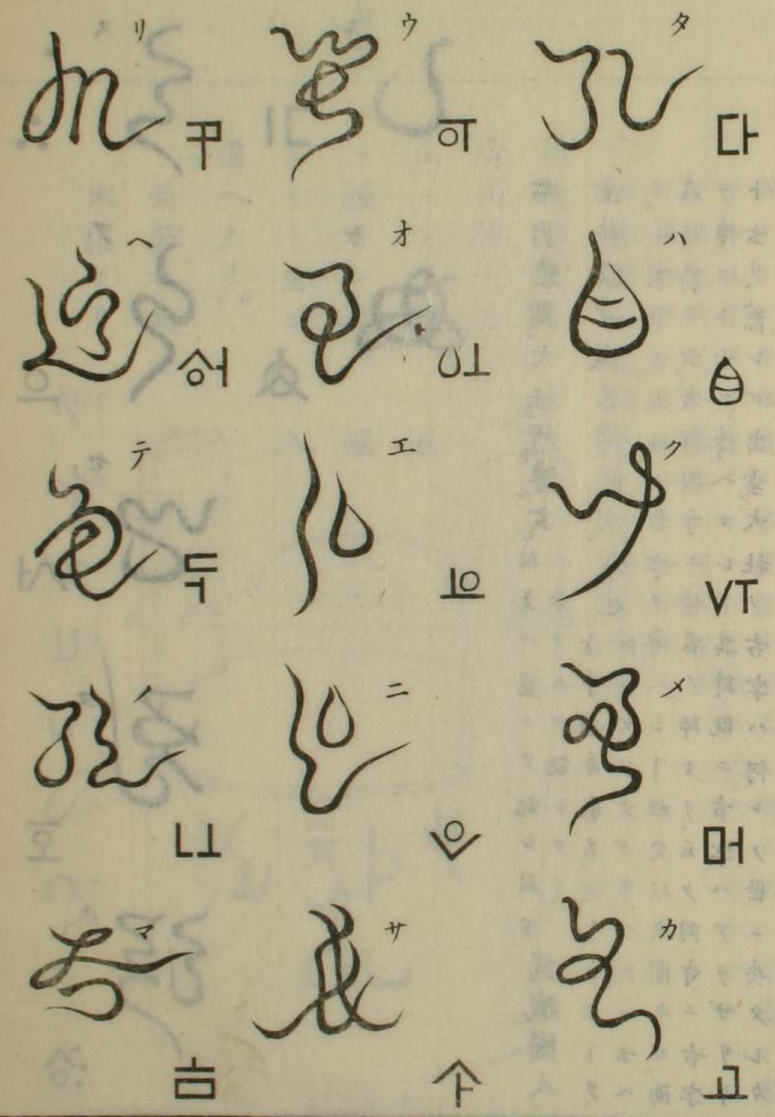
右武藏國多摩郡畔切(アキルノ)神社銅鍥古字慶長八年夷丘(ヒナヨカ)ヨリ掘出シ、所ナリ。以後神寶トスト云ヘリ。己レ若年ノ時此摸寫ヲ得テ珍藏ス。今年二月實物ヲ見ムヿヲ思ヒ立テ同所即チ五日市村ナル松原神社ノ祠官阿留多伎連ノ家ヲ訪ヘリ。然ルニ此銅鍥ハ天保元年十二月七日ノ火災ニ罹リ紛失セリト云フ。

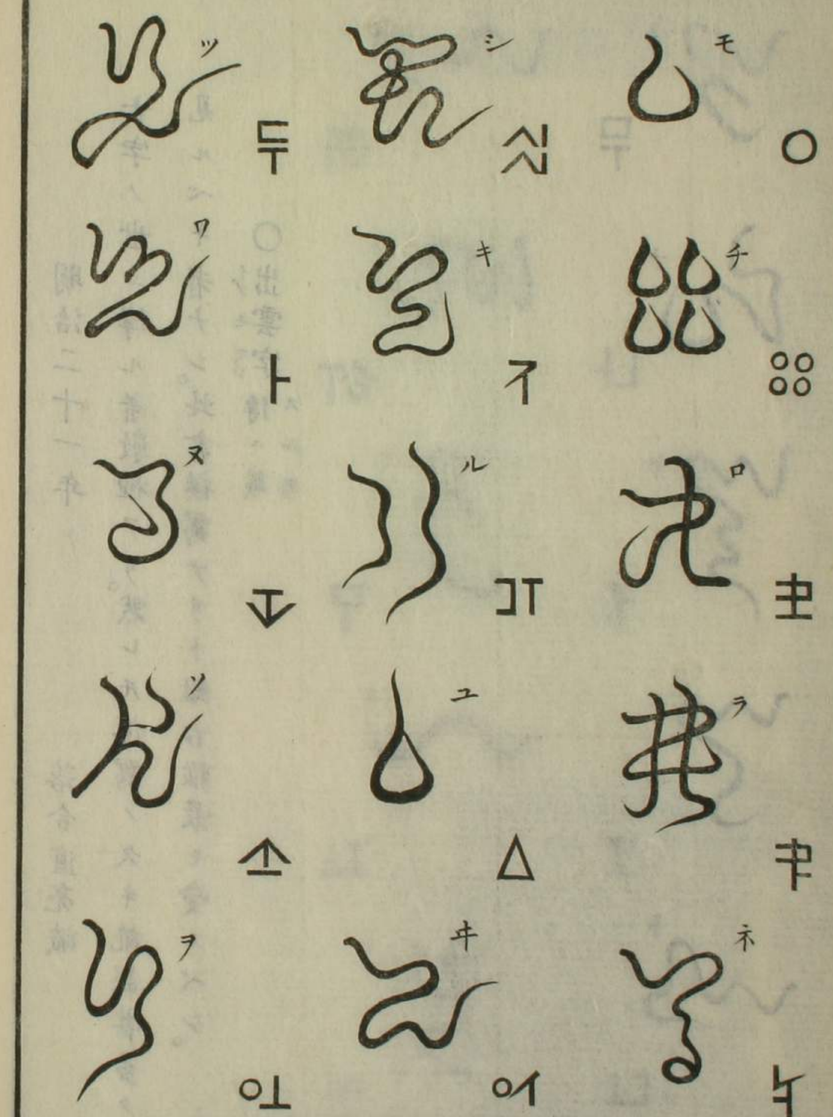
明治二十一年　落合直亮識

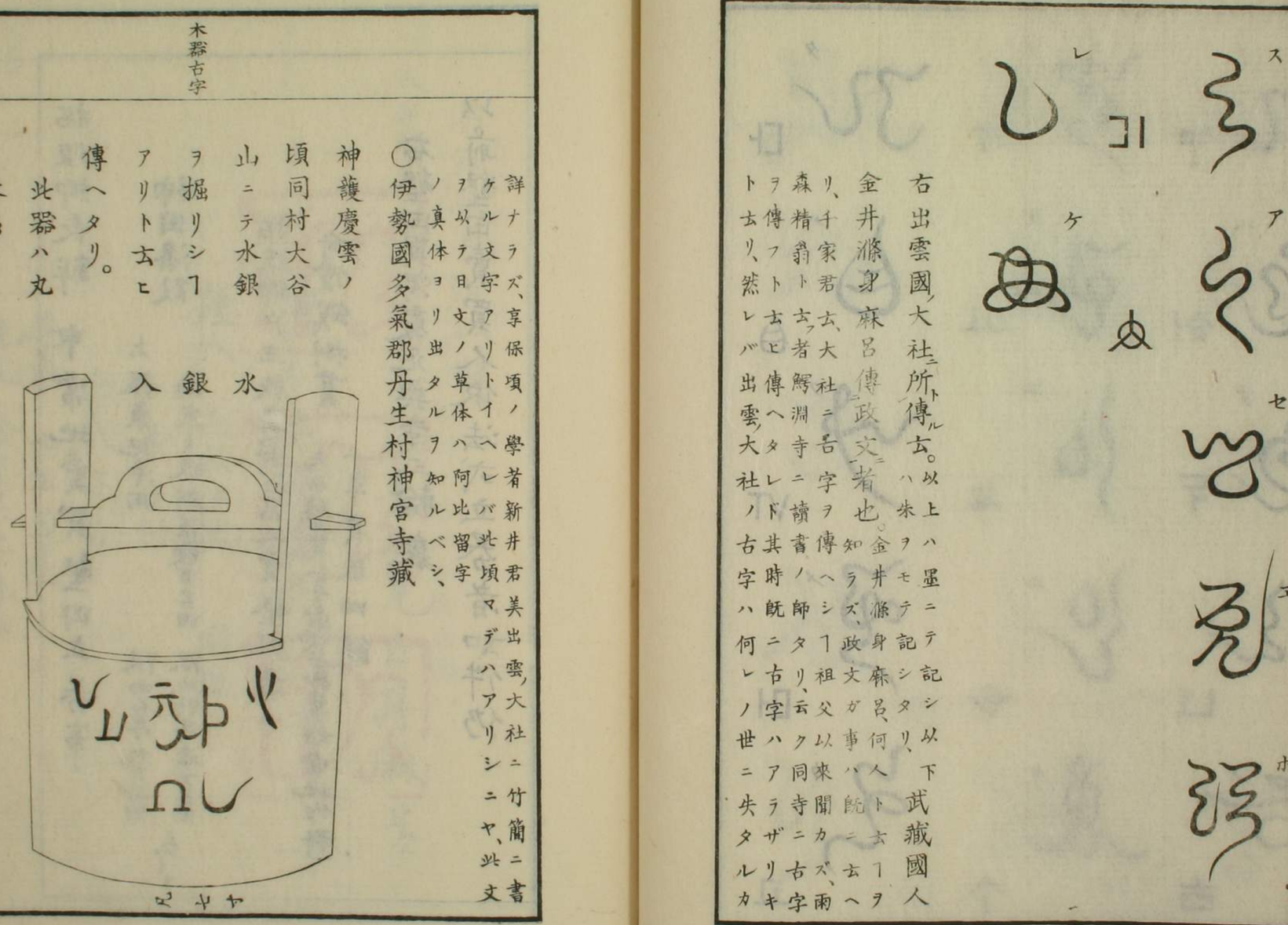
古字ノ世ニ傳ル者數種アリ。然レ𪜈傳寫ノ久キ訛誤甚多ク見ルベキ者ナシ。此書摸寫ナリト雖古雅最モ愛スベシ。

○出雲字(イヅモモジ)傳ニ載スル所




タ 다
ハ 自
ク VT
メ 卧
カ 고
ウ 可
オ 이
エ 고
ニ 이
サ 个
リ 구
ヘ 쉬
テ 두
ノ 그
マ 吉


モ ㅇ
チ ㅆ
ロ 主
ラ 丰
ネ 午
シ 싯
キ ㄱ
ル ㄱㄱ
ユ △
ヰ 이
ツ 두
ワ 卜
ヌ 丁
ソ 个
ヲ 이



右出雲國大社ニ所傳古。以上ハ墨ニテ記シ以下朱ヲモテ記シタリ、武藏國人金井滁身麻呂傳政文ニ者也。金井滁身麻呂、何人ト云フヿヲ知ラズ、政文ガ事ハ既ニ云ヘリ、千家君云、大社ニ吾字ヲ傳ヘシヿ祖父以來聞カズ、兩森精翁ト云フ者鰐淵寺ニ讀書ノ師タリ、云ク同寺ニ古字ヲ傳フト云ヒ傳ヘタレド其時既ニ古字ハアラザリキト云リ、然レバ出雲大社ノ古字ハ何レノ世ニ失タルカ詳ナラズ、享保頃ノ學者新井君美出雲大社ニ竹簡ニ書ケル文字アリトイヘレバ此頃マデハアリシニヤ、此文ヲ以テ日文ノ草体ハ阿比留字ノ真体ヨリ出タルヲ知ルベシ、

○伊勢國多氣郡丹生村神宮寺藏

神護慶雲ノ頃同村大谷山ニテ水銀ヲ掘リシヿ銀アリト云ヒ傳ヘタリ。

此器ハ丸木掘ナリ

○古券印影 梅園奇賞所載、大和國東大寺所藏、古券、印影ハ埋彌發沓ニ由ル、

拓殖郷長解　申常地賣買墾田立券事

神田漆段

上限東紀寺田　限西石亭大万呂田

南京〻敢朝臣粳万呂田　限北牧亭廣万呂田　〻〻下

拓殖郷戸主敢臣安万呂之賣墾田者

付價錢捌貫　天平勝寶三年歳次辛卯年始常地作料

一年貢米四斛

右墾田買得處元興寺三輪衆

以前墾田賣買人依法式立券者如件仍

具録状申送以解

天平勝寶元年十月廿一日

郷長桃尾臣丹麻呂

田主敢臣安万呂　右手搨

證人　壬生少掾　同姓

石市石村

申代万呂

筆取　壬生淨足

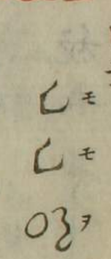
税長　石亭杲安麻呂

一本

小槙舎蔵

桃尾印

印章

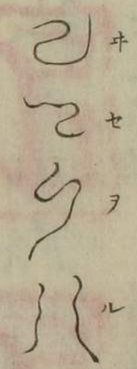


漢字ノ印ヲ用ルヿ專ラ持統天皇ノ頃ニ始ルト雖、古字印ヲ悉ク廢シタルモノニハ非ルベシ、天平勝寶ハ持統天皇ノ世ニ後ルヽヿ凡ソ六十年トス

○筑後國高良神社所藏銅印鈕銀魚

高良社印

印章



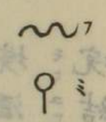
義詳ナラズ神名ナルベシ

植字ナリ彫刻セシモノミアラズ

○大和國宇陀郡春日井村人宇陀太郎所藏銅印鈕巖上猿

宇陀氏印

印章



持統紀六年九月神祇官奏上神寶書四卷鑰九箇木印一箇トアリ。參考スベシ。伊勢神宮ノ印ハ天平中ノ初造ニシテ長德ノ改造ニ係ル。漢字ノ印ヲ用シハ持統天皇ノ頃ヲ始トスベシ。

渡邊氏印

印章

○豐前小倉人渡邊修齋氏所藏銅印

小山氏印

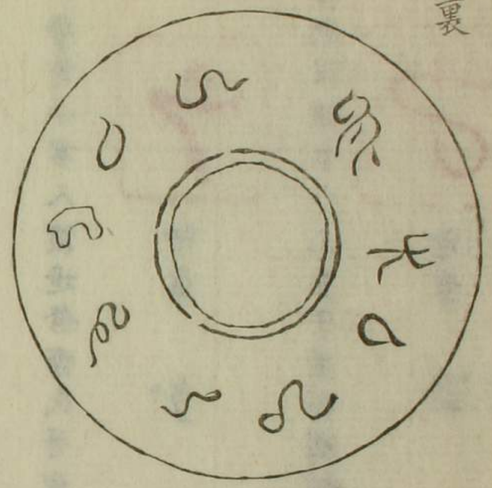
印章

○肥後熊本小山多乎里所藏銅印

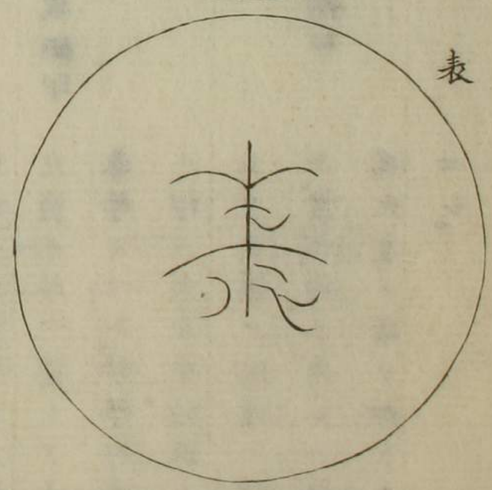
土坏古字

○肥後大津町伊勢屋所藏土器字

裏



表



モ　モ
ヒ　ヒ
サ
ユ　ヒ
ケ

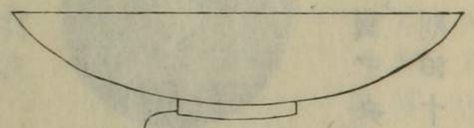
垸酒（モヒサケ）

垸結（モヒユヒ）

日文傳附錄云

アメ

側面形



徑三寸三分

深五分

色薄鼠

形聊存レリ

字凸彫

雄略紀二十七年春三月、詔ニ土師連等ニ使レ進下應レ盛ニ朝夕御膳ニ清器上トアレバ此時代ヨリ漸精工ノ土器アリ、

大津町伊勢屋某ノ先祖某加藤清正ニ從テ小西ト佐山ニ對陣セシトキ陣中水ニ乏シ。某山腹ヲ穿チ水ヲ求メントス。時ニ神ノ根ノ間ニ此土器ヲ得タリ。其時長田某老翁見テ神字ナラムト云。今傳ヘテ家ニ秘藏ス。

明治十五年肥後國帆足正久記。

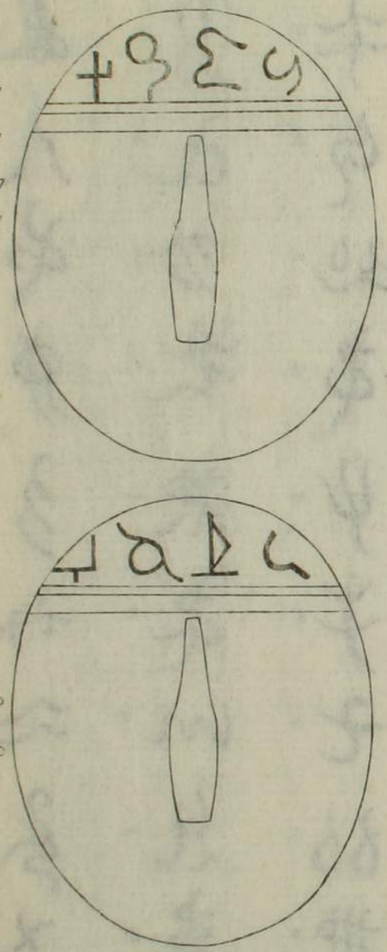
○越後中頸城郡宮内村。字社山鎮座。式内斐太神社神体ノ内。

青石　陰文

大サ如シ圖中央ニ穴アリ

明治十九年六月神官倉科吉信ト共ニ寫ス

塚田菅彦



○武藏國多摩郡挽田村館林彌吉所藏鐵鈴古字。是レ元來鈴ニ非ルヲ何人カ改造セシモノナルベシト云。明治廿一年二月阿留多伎氏ノ本ヲ以テ之ヲ寫ス。落合直亮

○阿波字（アハモジ）　陸前本吉郡、加美郡及信濃伊奈郡等同字体アリ。阿波國大宮ニ傳フル所ナリ、今阿波字ト名ク、

クマノ　如シ此ヨムベキカ、サレバ十。十ハ六行成字ニテ、其他ハ守恒字也、守恒字ノ条ニ載スベシ、

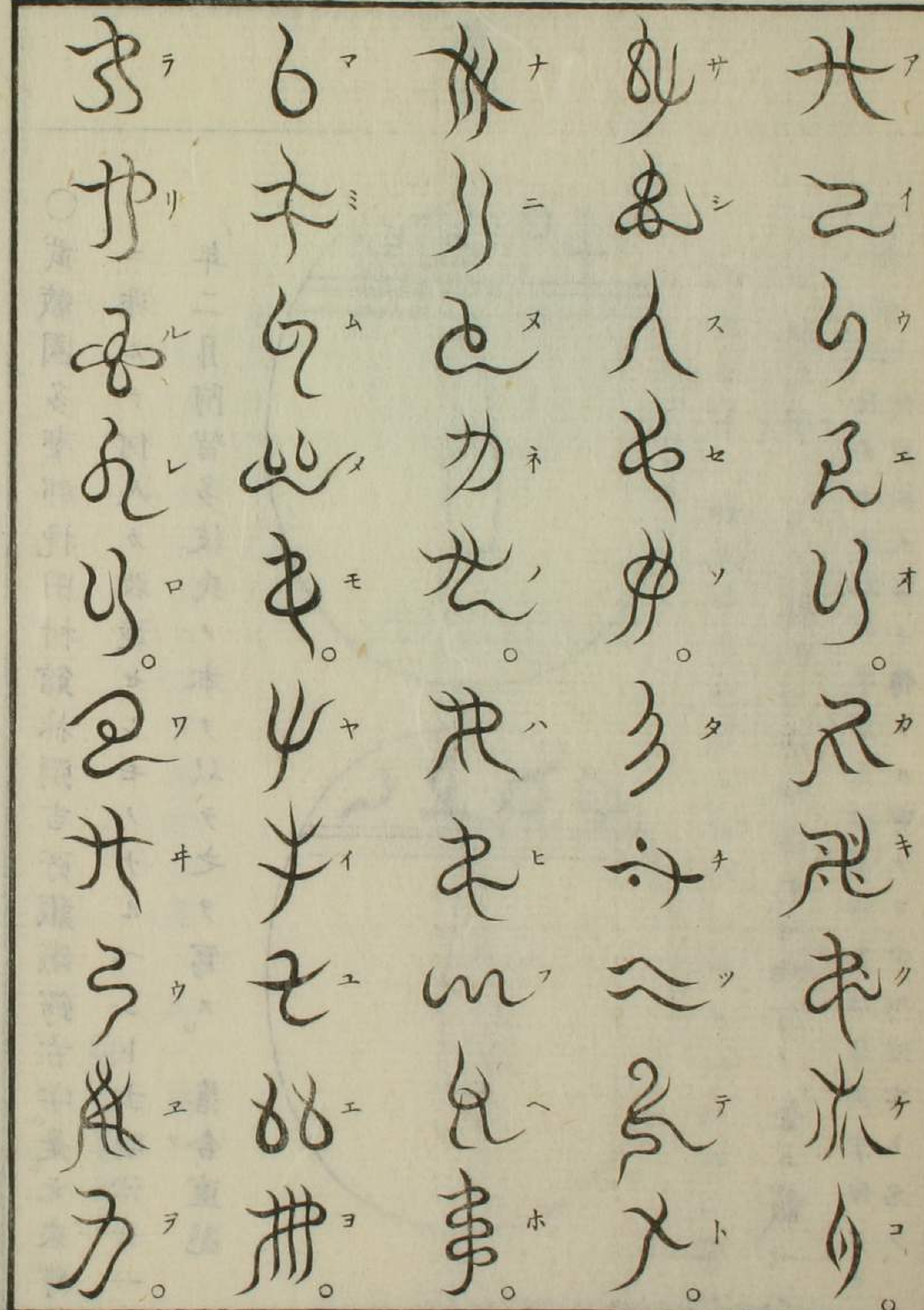
オノムチ

シテ、

阿波國大宮神主充長ト云人。神名書一冊ヲ著シ數種ノ古字ヲ載セタリ。又自ラ中臣祓詞ヲ古字ヲ以テ記セリ。安永八年ノ序跋アリ。傳附録ニ載スル所字体正シカラズ。今原書ニ由テ記ス。此字体ハ阿比留草体ヲ主トシ種々ノ字ヲ折衷セシモノ、如シ。ケヘコホ等ハ象形字ト見エテ上記ノ字ニ近シ。十幹字ハ琉球字也此字類ニアラズ。今之ヲ略ス。此字体ヲ以テ記スルモノハ枯汞村古碑中里千族所藏。藥法字。亦須村小町谷氏所藏。桐板字等ナリ。傳附録ニ此字ヲ充長ノ作物トセル論等ハ過テリ。

○古碑

陸前國本吉郡唐桑村御崎神社北境内ニ龜之碑ト云ヘル古碑アリ左ノ五字アリ。石質堅牢タトヒ數万年ヲ經ルモ缺損



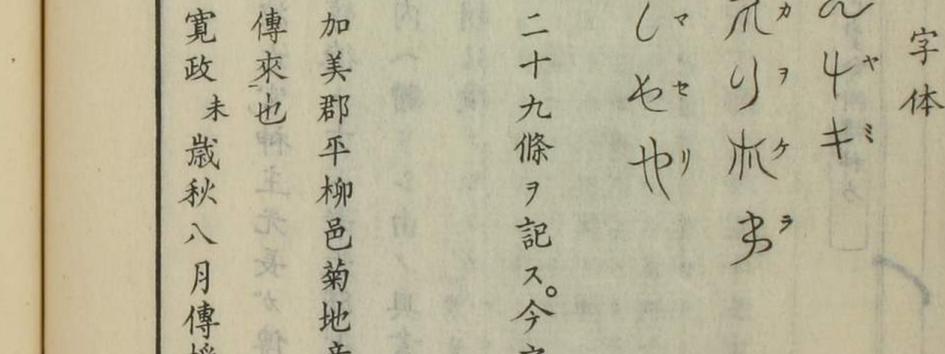
スベクモアラズ。形圖ノ如ク丈四尺幅廣キ所一尺六寸四方角(カド)ナキ自然石ナリ。三十年バカリ前土中ヨリ堀出スト云フ。明治二十一年一月祠官伊東太仲石摺ニシテ之ヲ贈ル希代ノ古字ナリ。

傳附錄ニ阿波大宮ノ神主光長ガ傳授スル中臣祓詞ヲ伊勢龜山ノ岩田惇德ト云シ者天明七年五月ニ仙臺本吉郡祭田村玉井宮内ヘ贈リシ由ノ奥書アルモノ見エタリ。然レバ龜碑モ天明以後ノモノカ。常世長鳴鳥、阿波國大宮ニ傳ヘタリト云フ神字ハ元ト陸奥國ニ傳ヘシナリ、寛延二年ニ記セル松山採齋ノ奥羽旅行記ニ此字ヲ載セタリト、今按ズルニ若シ此說ノ如クナレバ大宮ノ神主光長、陸奥國ニ傳ハリシ古字ヲ以テ中臣祓詞ヲ記シ、ヲ岩田惇德再ビ玉井宮内ヘ贈リシモノナルベシ、然レドモ大宮ニモ古來種々ナル古字ヲ傳ヘシ神名書ヲ見テ知ルベシ、

落合直亮撿之

○下野國宇都宮中里千族家藏卷軸古字

字体



如此藥法二十九條ヲ記ス。今之ヲ略ス字体ハ阿波字ニ類ス。

奥書

陸奥國加美郡平柳邑菊地意水家珍秘藏而所世々傳來也

維昔寛政未歳秋八月傳授寫畢

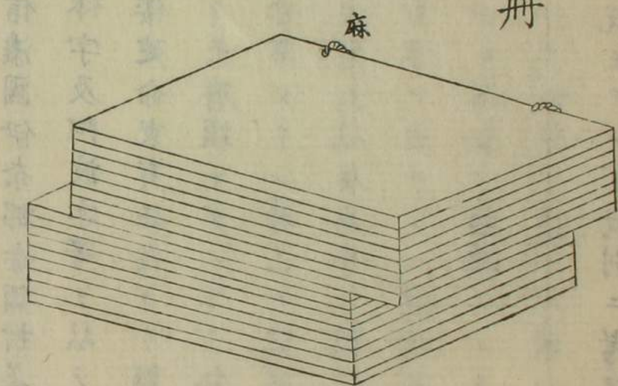
○信濃國伊奈郡赤須村美女森神社古字。阿比留草体字及阿波字等ヲ从テ記セリ。

衣關頽庵

源貫五

此文字ハ倭建命東夷征伐ヨリ歸途此地ニ立寄ラセ賜ヒシ事跡ヨリ天暦頃マデノコトヲ記セリ。明治二年我兄直亮伊奈縣大參事タリシ時己モ彼所ニ遊ビテアリシガ同縣主記青嶋良賢五嶋廣高等ト彼社ニ到リテ神官小町谷氏ヲ責メテ古字ヲ出サシム。直澄之ガ訓解ヲ加ヘムト甚苦メリ。然レドモ漸意ヲ解釋スルヲ得タリ。是ヨリ美女神字世ニ現レタリ。假字ノ違ヘル或ハ文ノ拙キ所ナドアルヨリ種々ノ説モアレド我別ニ考アリ。

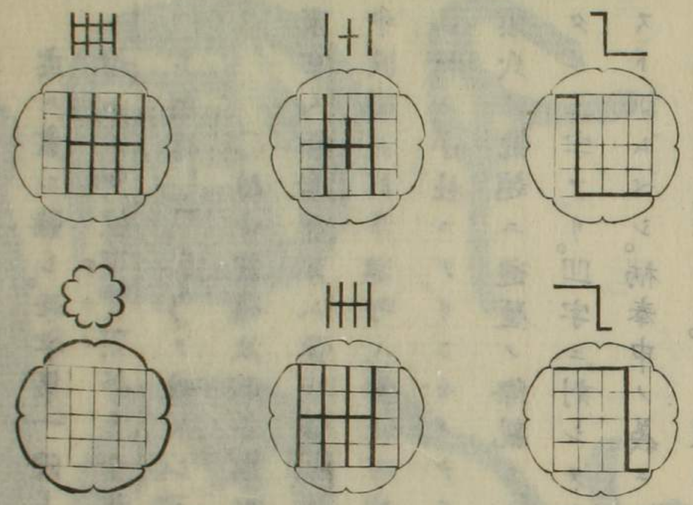
桐板二冊



百年バカリ以前本書燒失シテ今ハ新調ノ板ナリ。是ノミ遺憾ニ堪ヘザルナリ。

●第七章惟足字（コレタリモジ）吉川惟足ノ傳フル所惟足字ト名ク、

字源及五十音



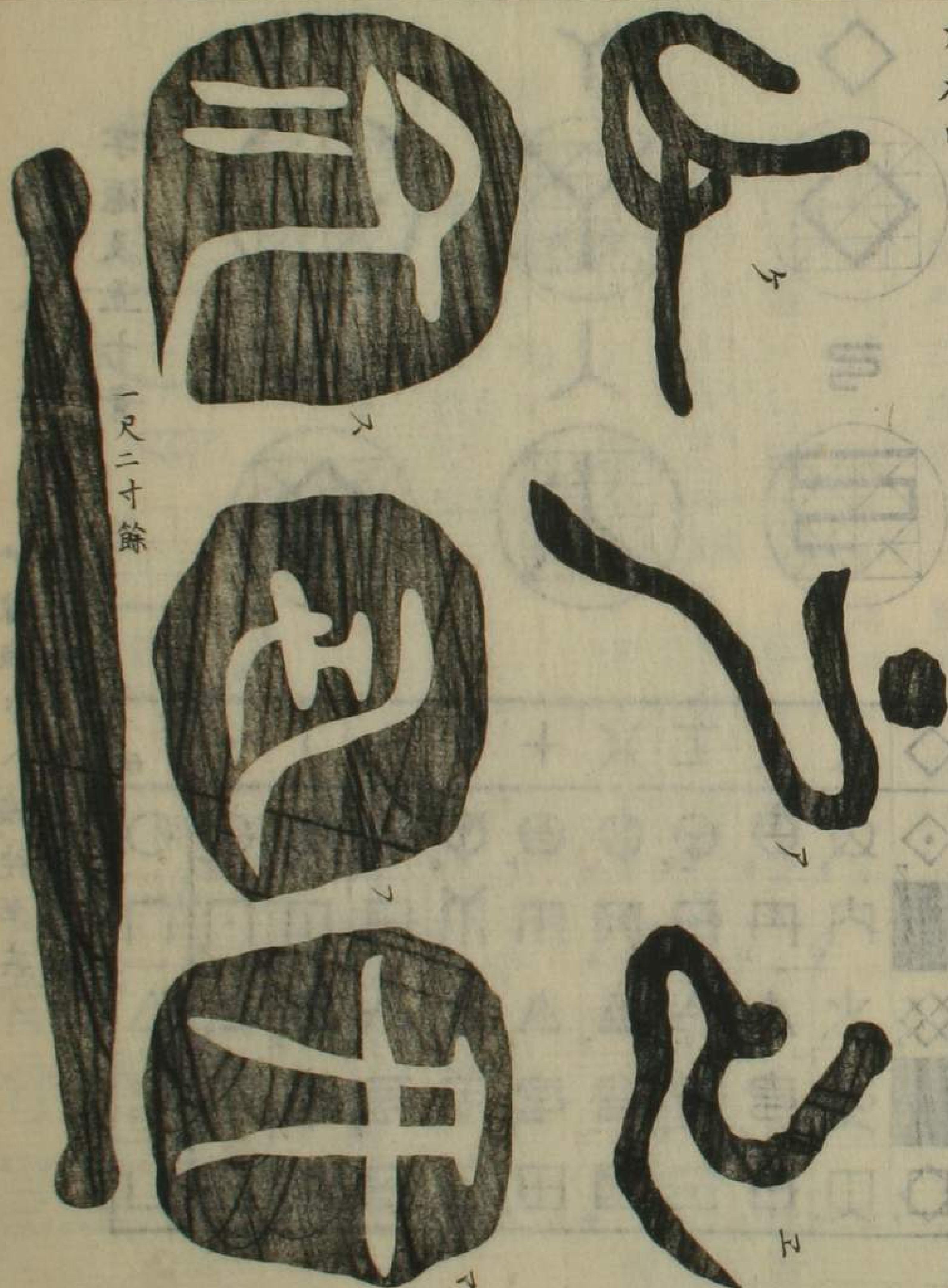
六畫	五畫	四畫	三畫	二畫	四畫	三畫	二畫	一畫	父／母	草体
ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア	
リ	リ	レ	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ	
ウ	ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ	
ヱ	レ	ユ	メ	ヘ	ホ	テ	セ	ケ	エ	
ヲ	ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ	

此字体傳附錄ニ載スル所甚紛亂セリ今訂正ヲ加フ。說此處ニ盡シ難シ。此字第一段一ㄦ川等ヲ以テ父トシ一ヲ以母トシ阿段丅丌丌等ヲ合生シ。再ビ丅丌丌等ノ段ヲ父トシ阿行ㄱ乁ㄹ弓ヲ母トシ三十六子字ヲ合生セリ。

○越中國礪波郡井潟町八幡社所藏石棒ノ銘

東京人類學會第八號明治十九年十月報告神谷由道ノ記越中國礪波郡井潟町八幡社所藏其先ハ同郡五箇山ト云ヘル山村ノ小社ニアリシモノナリト云。我友人西京ナル關口老雲氏ノ北越ニ遊歷ノ際親シク寫シ取ル所ナリ。凸字ニ刻シタル三字アリ。凹字ニ刻シタル三字アリ。直澄云。ヱアケマフスト訓ムベシ。柄奉申ノ義ニテ柄ハ石劍ヲ指スナリ。マフスノ三字惟足字ナリ。申ノ假名違ノㄱハ別ニ論アリ意トスル

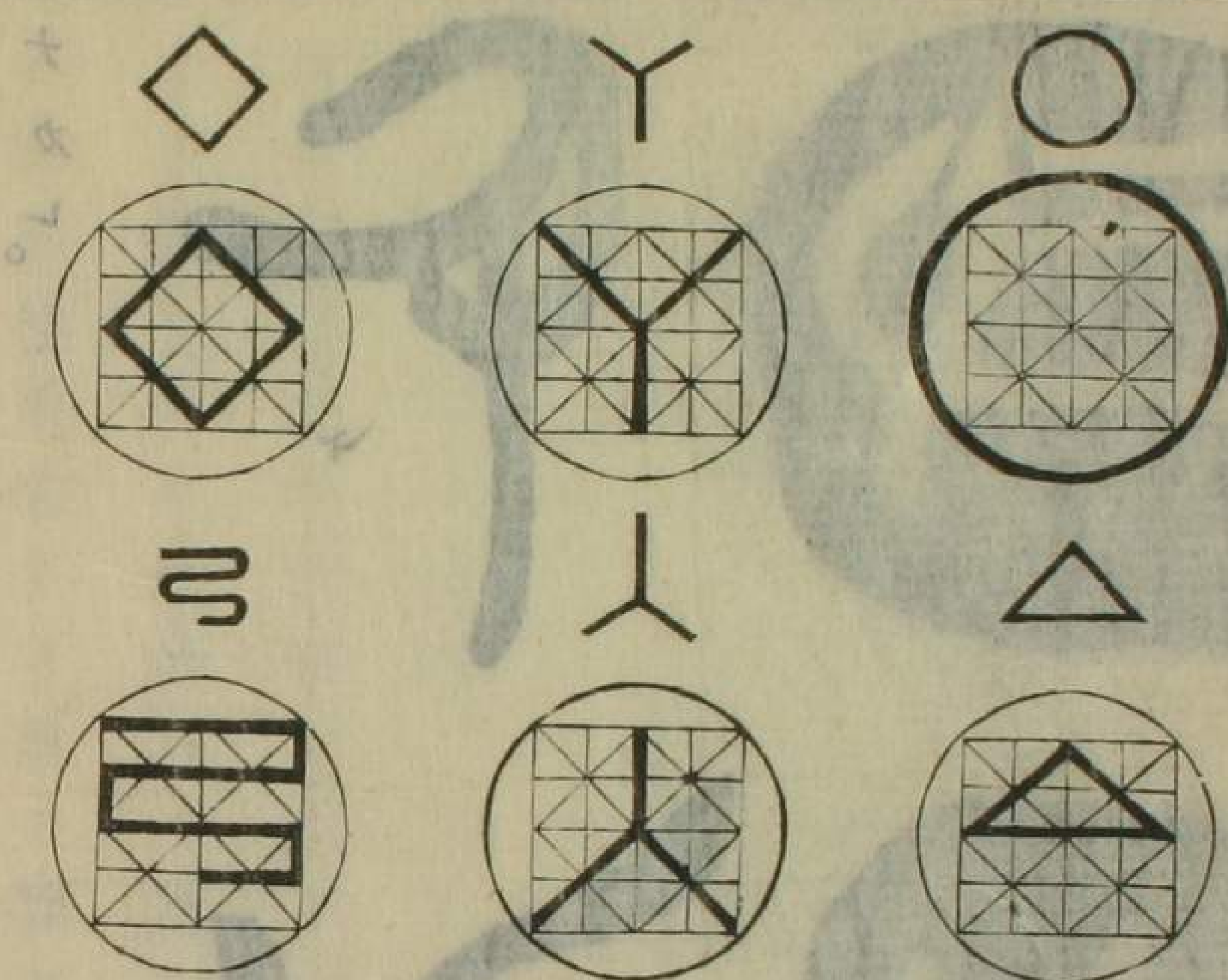
石劍古字



小槇舍藏

●第八章伊豫字 伊豫城下八幡神主其ノ傳フル所伊豫字ト名ク

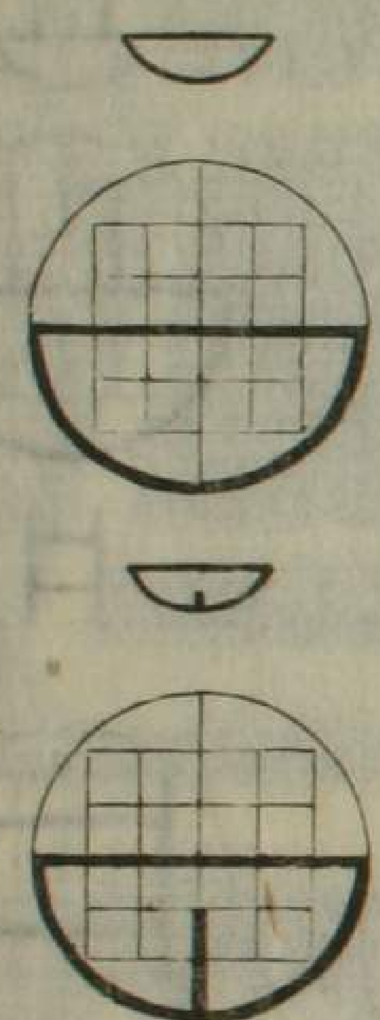
字源及五十音

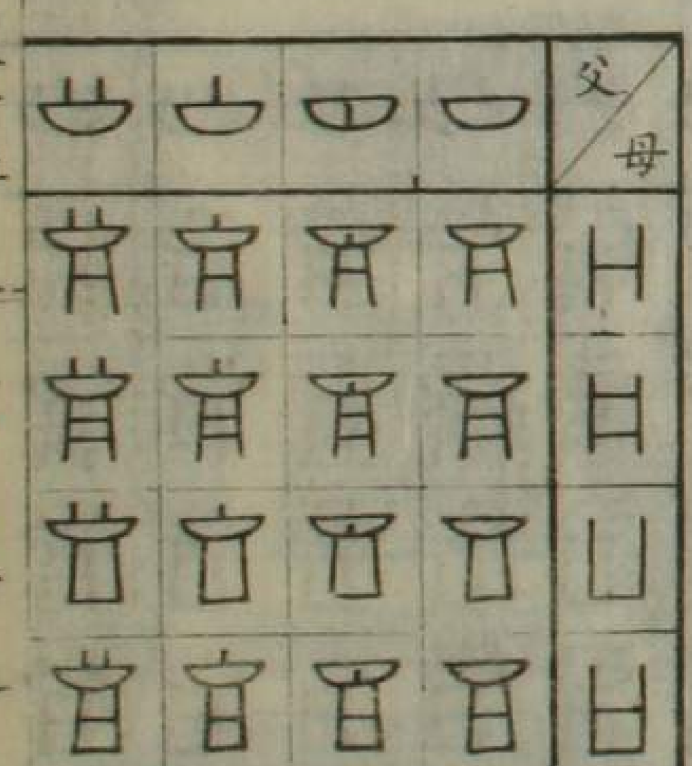


丹後國熊野郡鹿野村ノ舊家ニ傳フル所ノ神事記此字ヲ以テ記セリ。但シ雅俗ヲ混ジタル文体ナレハ上古ノモノニ非ルハ論ナシ。飾リモナケレバ偽物トモ見エズ。此神事記ニ(フ)(ワ)(ウ)(エ)(マ)(ハ)(ヒ)等ニ書ケルハ草体或ハ異体ナリ(ユ)(ル)ハ正体ナリ。(ウ)ヲランニ用タリ。日本紀秀眞傳(ホツマツタヘ)ト云フ書此字ヲ以テ記セリ。

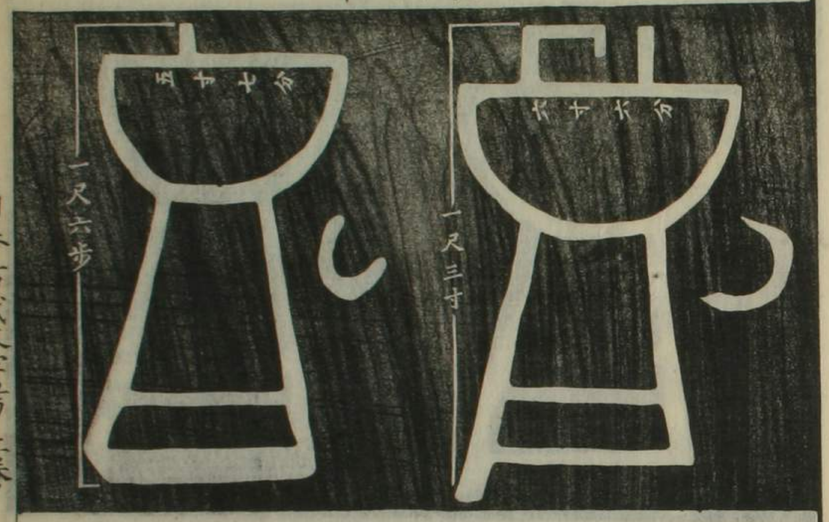
●第九章筑紫字(ツクシモジ)

字源及五十音

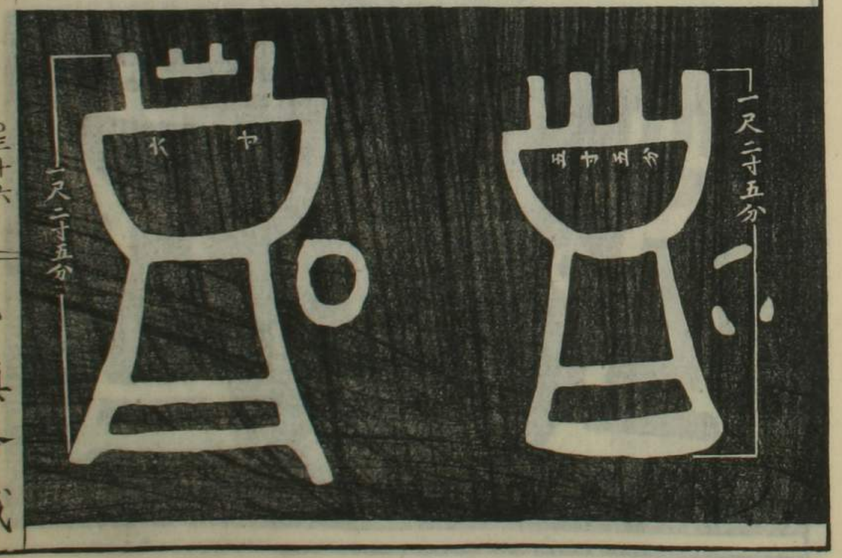




一枚ノツヾキ

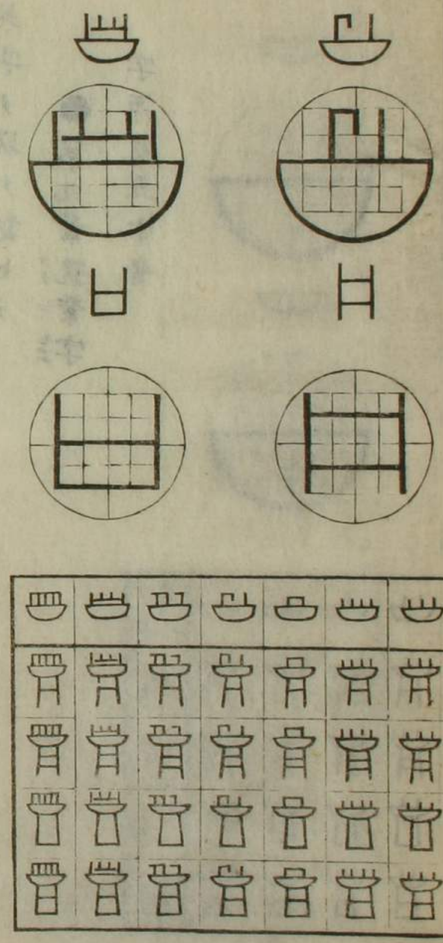


二枚ノツヾキ



一枚

○筑後國生葉郡上宮田村字重定石窟中ノ文字

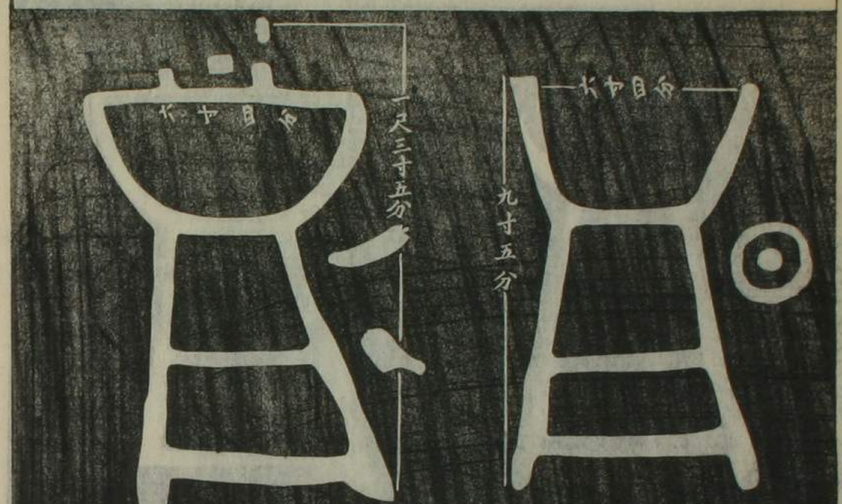


二枚

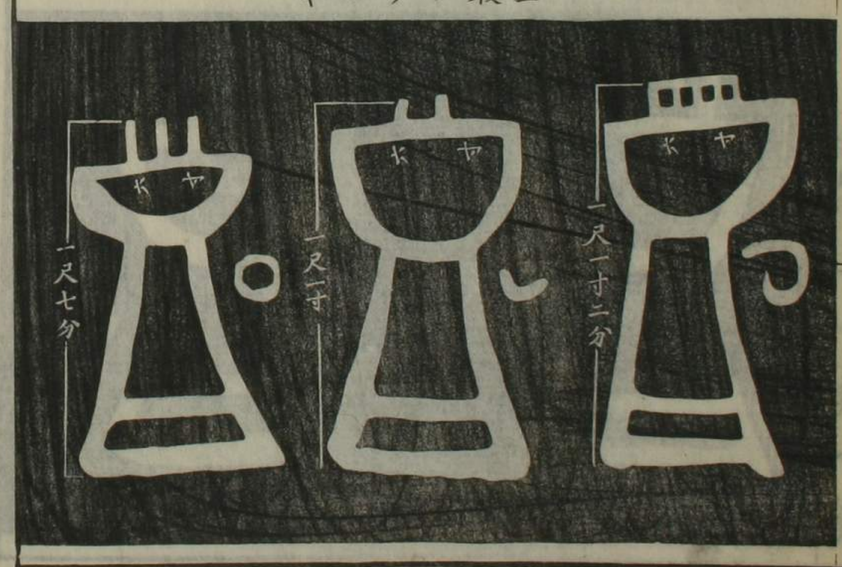
一枚ノツヾキ

二枚ノツヾキ

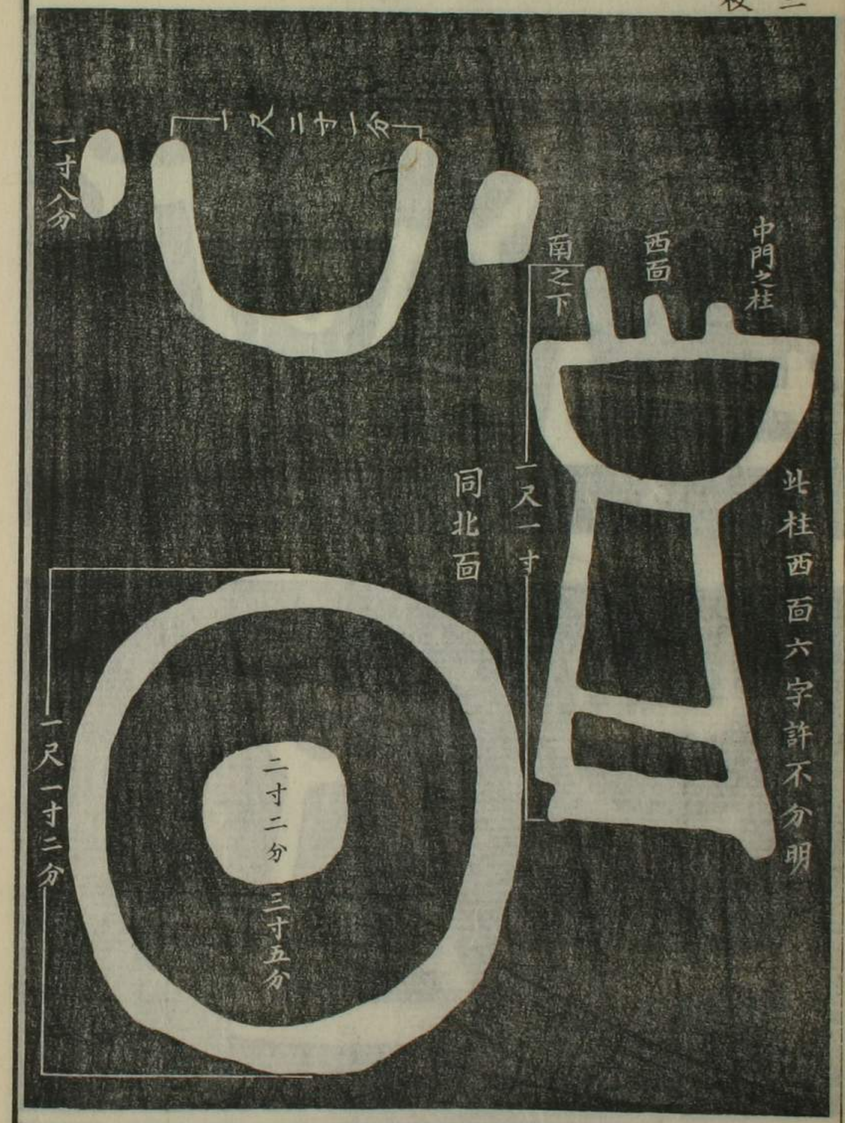
一枚ノツヾキ



二枚ノツヾキ

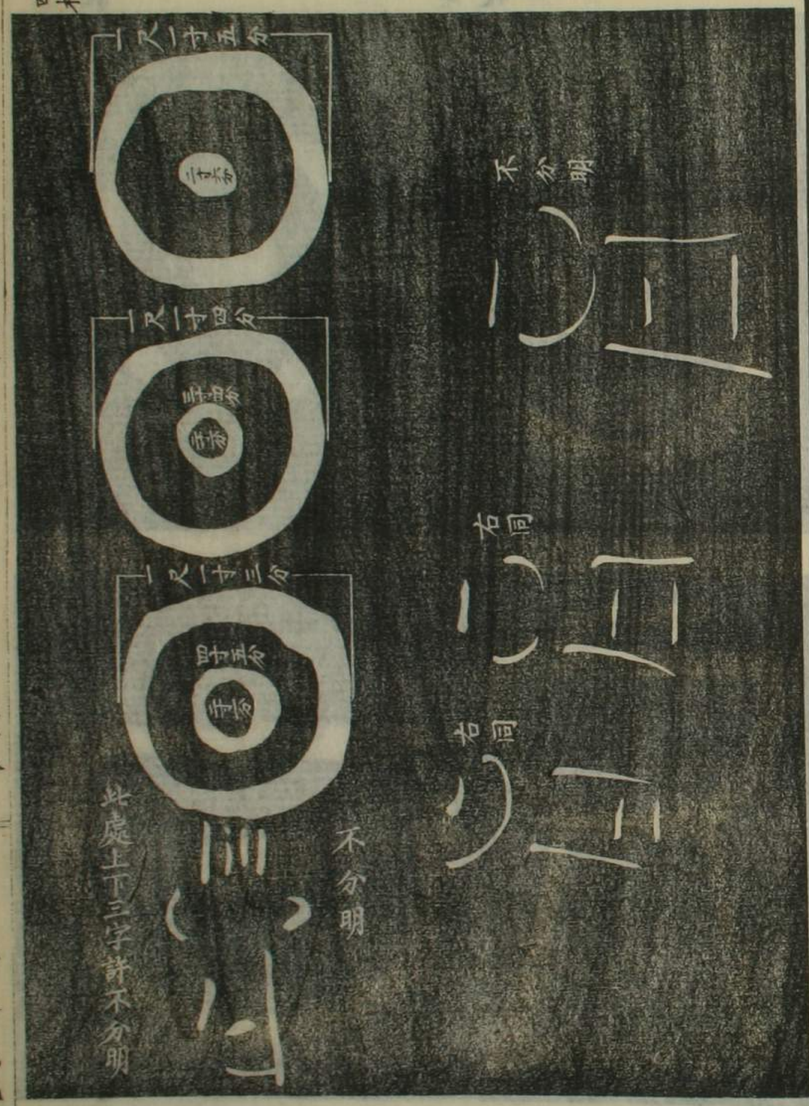


三枚



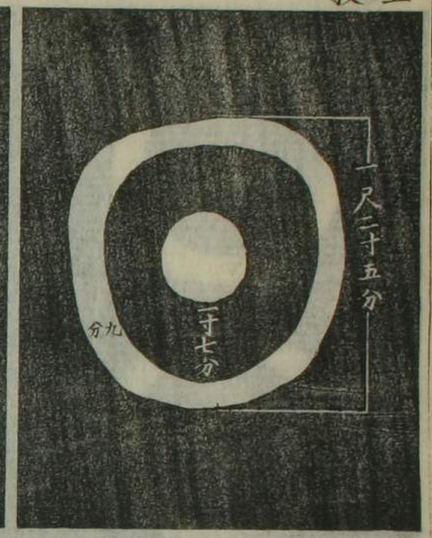
一尺二寸一分
一寸八分
中門之柱
西面
南之下
一尺一寸
同北面
此柱西面六字許不分明
一尺一寸二分
二寸二分
三寸五分

四枚



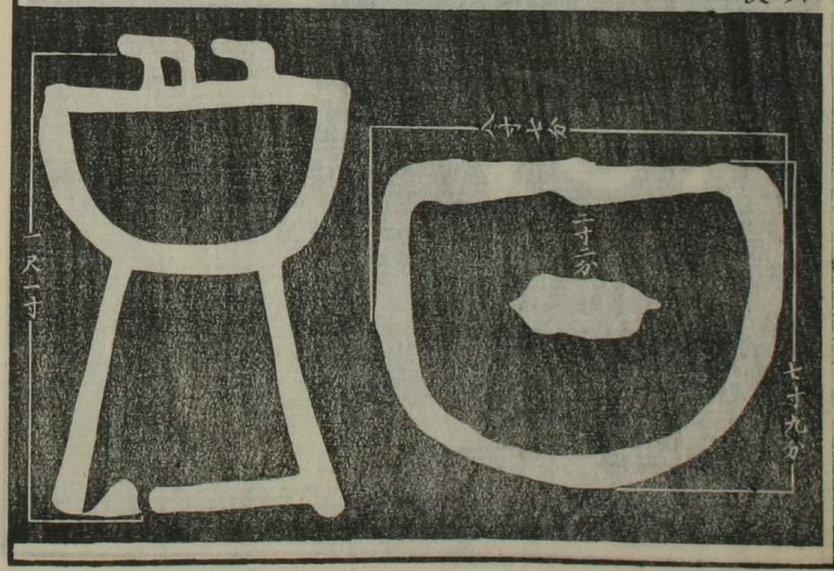
一尺一寸五分
二寸六分
一尺一寸四分
三寸四分
二寸六分
一尺一寸三分
四寸五分
二寸六分
不分明
右同
右同
不分明
此處上下三字許不分明

五枚



七枚

六枚



七枚ノツヾキ

文政八年三月五日
久留米藩士
村上量敏
早川一照
石窟中ニ摸寫ス
紙數七枚

此古字傳附録ニモ載セタレド人々相傳ヘテ寫誤錯亂セシモノト見エテ字体甚疑フベキモノ多シ。今村上量敏等ノ損寫セシ原圖ニヨル。又此字体ヲ見テ奇トスルノミニテ古來説アルヲ聞カズ。今字母ヲ捜索シテ五十音圖ヲ製ル。後來讀法ヲ知ルノ一端トナラバ幸ナリ。此古字中傍ニつ (⊙ ⌒、等ノ點ノ如キモノヲ附スルアリ。梵字ニ ⌒ 、ヾ 等ノ點ヲ加ヘテ長呼トスルニ似タリ。

[梵字]（ア） [梵字]（アー） [梵字]（ウ） [梵字]（ウー） [梵字]（エ） [梵字]（エー） 等ノ如シ

又 [古字] [古字] [古字] ノ如キ字アリ。是類字母カ點カ詳ナラズ。傳附録ニ云。此外ニ文字數体アレド分明ナラズ。石窟（イハヤ）ハ南ニ向キタリ。文字スベテ右ノ方少カ下ガレリト有リ。

○神谷由道古代文字考所載 明治十九年十一月東京人類學會第九號報告

松浦北海翁庭中石面ノ文字ナリ、此石或藩邸ノ石垣中ニ在リシモノナリトイフ、

打本縮寫〔三分一〕

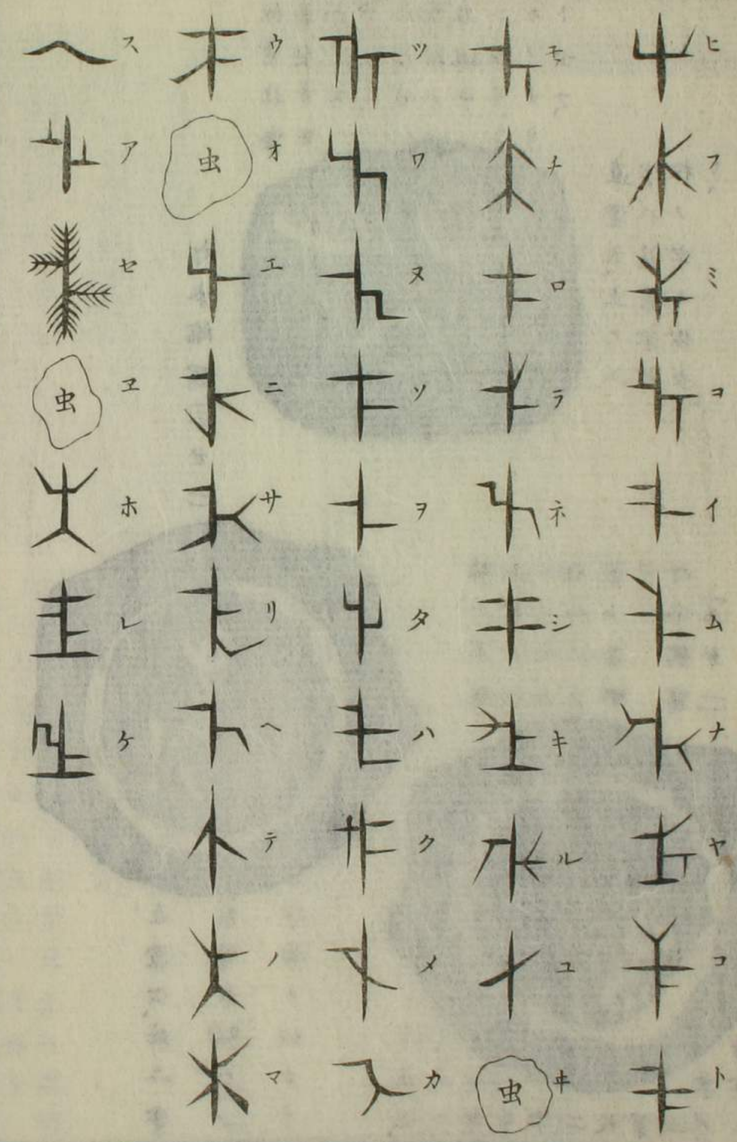
直澄云、上ノ二字ハ筑紫字七枚ノ字ニ似タリ、

越中國礪波郡高瀬村式内高瀬神社所藏石造鰐口打本縮寫〔三分二〕

直澄云、此二字筑紫字 [古字] 日 ノ字原ニ似タリ

直澄云、此二字筑紫字二枚第三字ノ傍字ニ似タリ、

●第十章對馬字



此文字ハ日文傳附録ニト食之兆文也トアルガ如シ。

ト兆

此圖ヲ以テ字原トス

此兆文ヲ鹿骨龜甲等ニ彫リテ火モテソノ兆文ヲ燒ク時拆割ルヽヲト食(ウラバム)トハ云フナリ。

ト食

ト食大凡如此其拆狀ニ因テ吉凶ヲトフナリ。漢土ニ傳フル所ノ龜トモ元同種ノモノト見エテト兆ヨリ出タル文字漢土ニモアリ。即我ト兆ノ文字ト凡ソ同体ノモノナリ。

ト小補韻會ニ說文ト灼剥龜也。象炙龜之形。一曰象龜兆之縱横也。又曰作卜徐鍇曰兆有如此者トアリ。トヲ龜兆之縱横ノ文ニ象ルト云ハ 此ノ如キ兆文ヨリ出タル由ナリ。又卜ニ作レルモノアルハト食ノ文ヨリ出タルヨシナリ。

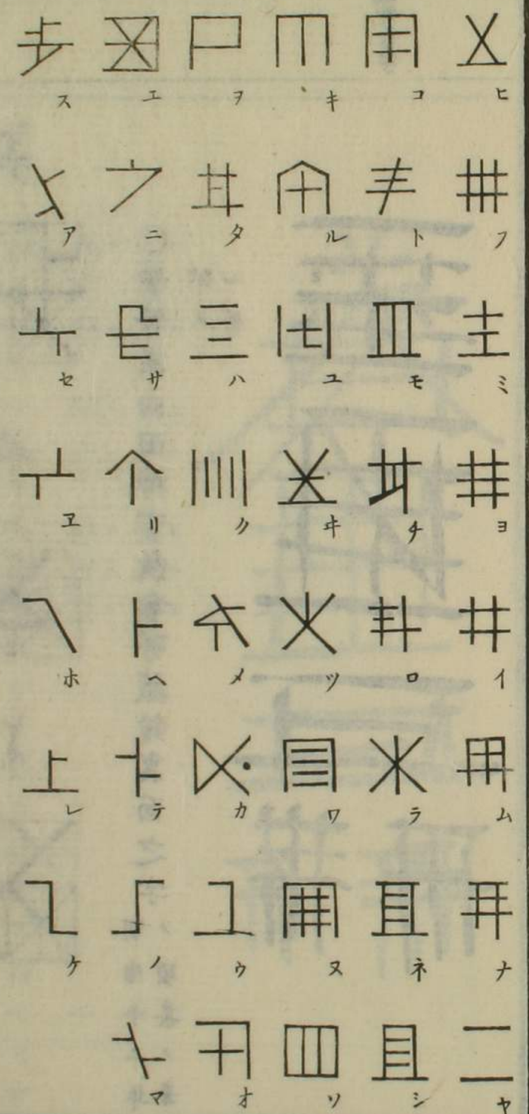
篆字彙曰。𠂤𠂤𠂤𠂤注曰。同兆象灼龜拆形。又兆𠂤𠂤𠂤𠂤等ニ作レリ。說文云。灼龜拆也トアリ。

此他𠂤𠂤𠂤等モト兆ヨリ出タル文字ニシテ即龜書ナルベシ。如此漢土ニモト兆ヨリ出タル文字アリテ此文ハ上ニト食之兆文也。トアルガ如ク兆文ヨリ出タル文字ナルヿ疑フベキニアラズ。

ト部家ノ說ニ龜トヲスレバ其拆形文字ノ体ナリト云新井氏云。吉田家ニハ龜兆ノ拆文ヲ文字トス。字体ハ古木ノ枝ノ如シトアル是ナリ。

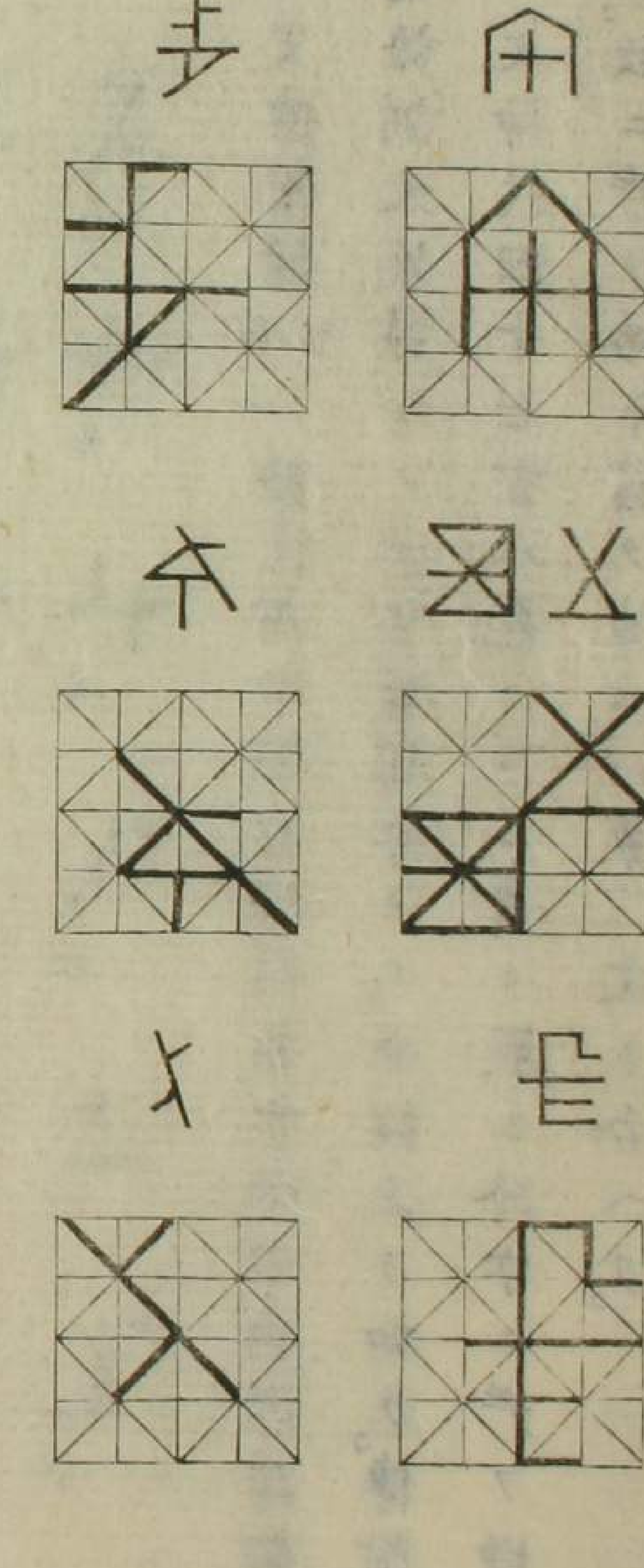
●第十一章齋部字（イムベモジ）

傳附錄ニ右齋部橘兩家之極秘トアルニ由テ齋部字ト名ヅク。

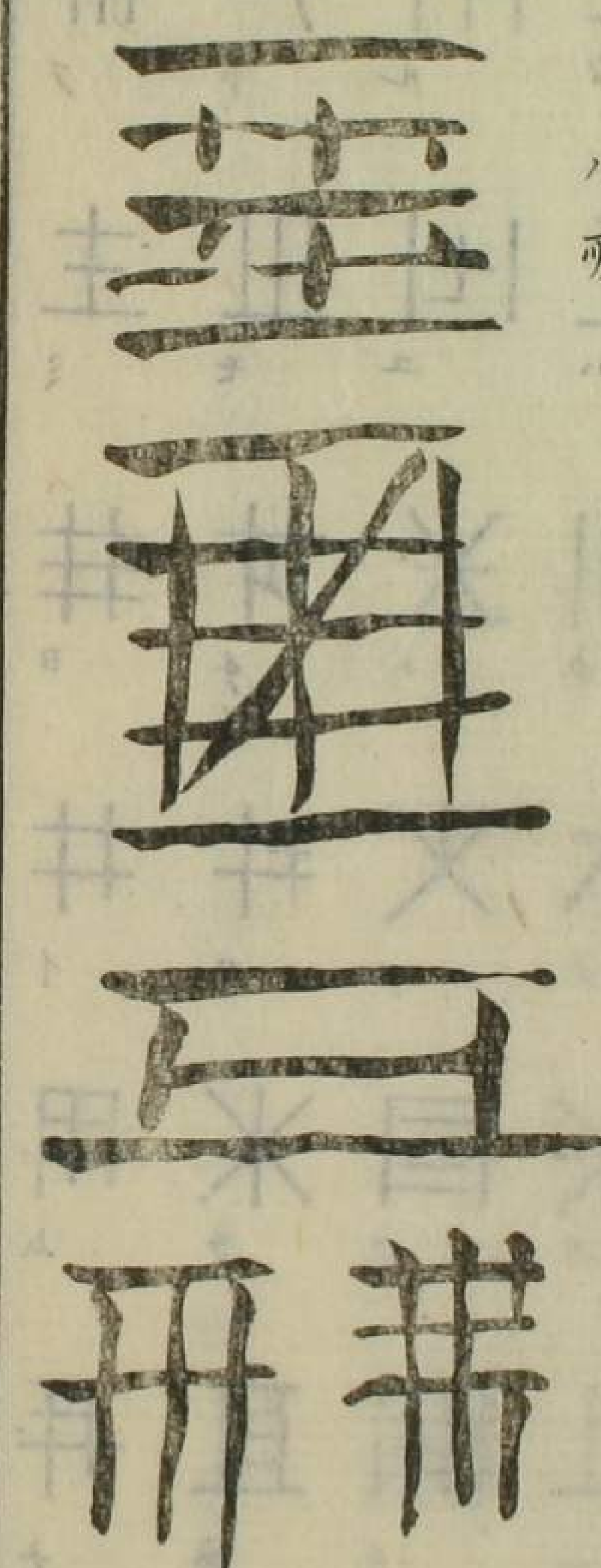


此文傳附錄十一丁神代四十七言。神代象字傳。神躰勸請御正印論語訓天地男女ノ字等皆同字ナリ。今訂正ヲ加フ。傳附錄第一文神代四十七言ハ見（ネ）ノ下ニ且ヲ脫シ終字ニ𠂤ヲ增加セリ。故ニ𠂤ヲ略キ且ヲ補ヘバ第二文ト合ヘリ。

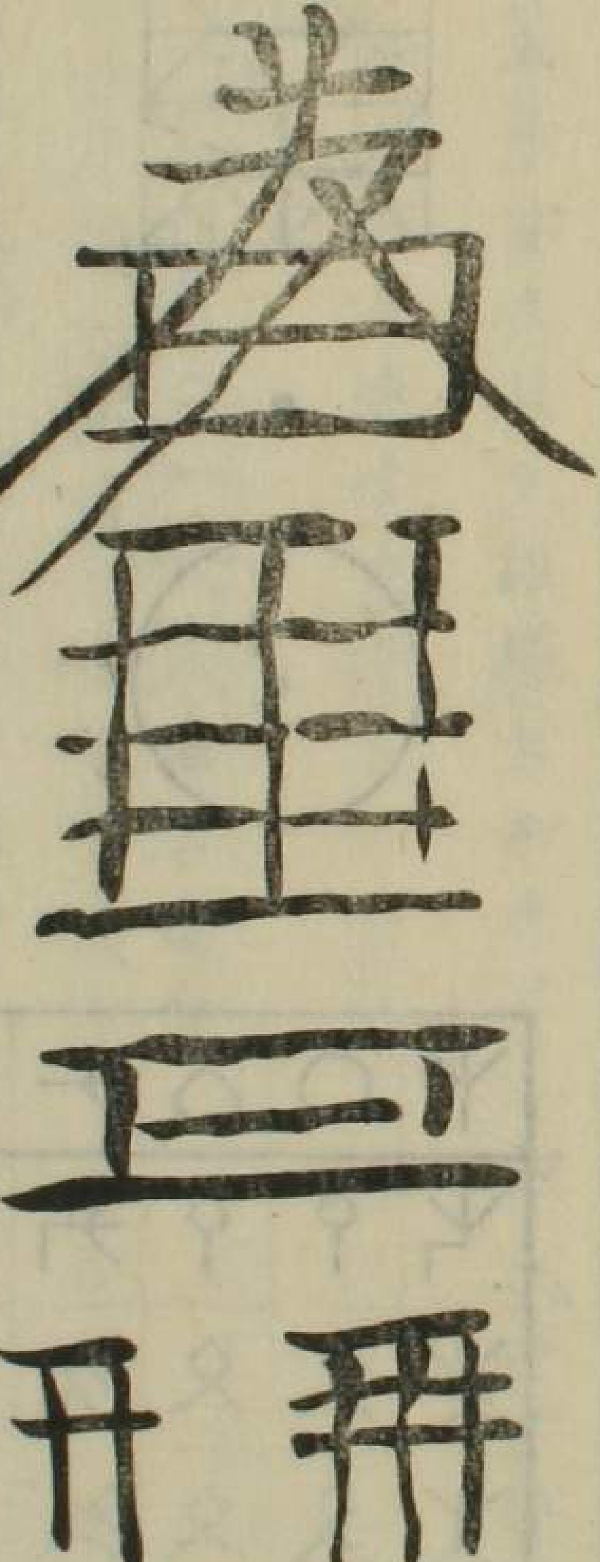
齋部字字源



鏡背古字



○伊勢國山田神宮教會所藏鏡裏面之字明治十二年ノ頃某ノ奉納スル所

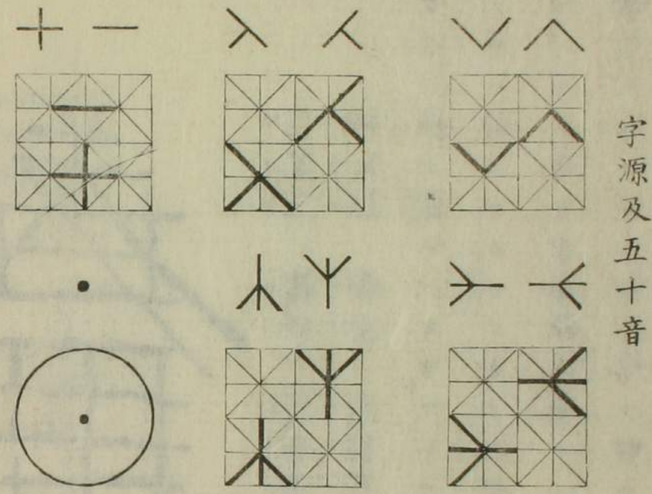


二米二（ヤラヤ） 冊丰（コト） 旦井冊（モチロ）
㐅文旦（ツツモ） 用圭（コト） 旦井开（モチロ）

カクノ如ク訓ムベキカ。コトモチロノ語ハ日文ノ詞ナリ。ヤラヤハ俗ニヤレヤレナド云語ニテ歎賞ノ意カ。ツツモハツツメヨノ意カ。字体聊カ異ナルモノ有レド此字体ニハ甚異字多ケレバ少シヅヽ体ヲ替ヘテ書ケルモノナルベシ。直亮云、此鏡ハサマデ古キモノトハ覺エザレドトニカク字体奇ナリ、古鏡ノ摸造ナラムト云リ、

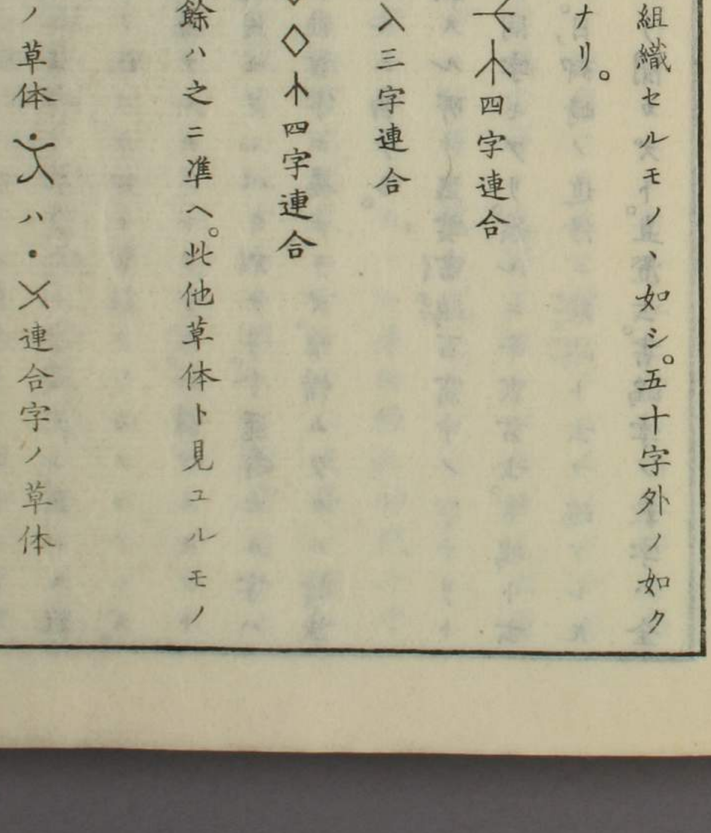
●第十二章夷奴字（アイノモジ）夷奴音アイ、奴奚音又、

字源及五十音



父／母	•	｜	ノ	乀	𠂉	十	一	∨	八	○	◇	𠂆
｜	｜	｜	ノ	乀	𠂉	十	一	∨	八	○	◇	𠂆
ノ	ノ	ノ	ノ	乀	𠂉	十	一	∨	八	○	◇	𠂆
乀	乀	乀	乀	乀	𠂉	十	一	∨	八	○	◇	𠂆
𠂉	𠂉	𠂉	𠂉	𠂉	𠂉	十	一	∨	八	○	◇	𠂆
十	十	十	十	十	十	十	一	∨	八	○	◇	𠂆
一	一	一	一	一	一	一	一	∨	八	○	◇	𠂆
∨	∨	∨	∨	∨	∨	∨	∨	∨	八	○	◇	𠂆
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	○	◇	𠂆
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	○	◇	𠂆
父／母	•	｜	ノ	乀	𠂉	十	一	∨	八	○	◇	𠂆

此字五十字ヲ以テ組織セルモノヽ如シ。五十字外ノ如ク見ユルハ大凡連合ナリ。



二字連合

三字連合

四字連合

四字連合

連合字カクノ如シ。餘ハ之ニ準ヘ。此他草体ト見ユルモノアリ。

草体カクノ如シ。餘ハ之ニ準ヘ。

ハ・×連合字ノ草体

三代實録元慶五年三日庚戌授ニ陸奥蝦夷譯語外從八位下物部ノ斯波ノ連永野ニ從五位下ヲトアレバ陸奥及ビ蝦夷ハ言語通ゼザリシナリ。況ヤ漢字ノ不通ナルハ論ナシ。然レ𪜈戰爭ヲ試ミ數々本邦ヲ犯スガ如キ智謀ナキモノニアラズ。今ノ土人ノ如ク至愚ナルモノニアラズ。知謀アルモノトスレバ必文字ノ通用モアルベキ理ナリ。今遺存セル字ハ字母アリ字原アリ我古字ニ異ナラズ。唯惜ムラクハ讀法ヲ傳ヘズ。意ヲ解スルニ由ナシ。

此字体傳附録ニ載スル所ノ出雲書嶋石窟中ノ字ナリト亦ニ類似セリ。全ク同字モアリ。然ルニ千家君云。書嶋ト云嶋ハ出雲ニハナシ。日ノ御崎ノ近傍ニ經嶋ト云フ嶋アレ𪜈石窟中ニ文字アルヲ聞カズト。直澄云。書嶋字ノ數字ハ全ク南部曆ノ數字ト同体ノモノナル上ニ全体夷奴字ト類似スルヲ以テ見レバ陸奥アタリニ傳ヘタルモノニハ非ルカ。猶能ク夷奴字書嶋字等ノ出所ヲ探ルベキナリ。出所判然セザレバ書嶋字ハ此所ニ載セズ。

書嶋字ノ外ニ夷奴字ニ類似ノモノハ傳附録ニ神代十千トテ載セタル字全ク同字也。古代ニ十千十二支等ノ有ルベクモアラネバ是モ後世ノ人十干ト思ヒテ附會セシモノナルベシ。

神代十干

北海道異体文字（東京人類學會雜誌十八號）坪平正五郎氏記曰此文字ア𪜈古器物ハ粗キ織物ニテ製リタル帶太刀下ゲ六角柱ノ石

片小壺木節木皮日本紙獸皮等ナリ。筆ヲ以テ畫キ刀ヲ以テ刻ミ棒ニテ印セルモアリ。帶狀及ビ日本紙ニハ朱字ナリ。獸皮石片ニハ金字ナリ。昨年九月六日ノ陸奥新聞ニ。榎本驛遞大臣。蝦夷千年以上ノモノト鑑定セラレシト云。

雜誌二十號

莊司平吉氏云。此度ハ天然石ニ刻セル確實ナルモノヲ報ゼントス。此字石六個。甲一圖ヨリ三圖マデ同地ノアイノテングスノ所有ニ係ル。丙一圖ヨリ二圖ニ至ルハアヒトル乙一圖ヨリ三圖マデ同地ノアイノフクスケノ所藏。木節ニ刻メル七字ハ古平郡余別村アイノノ所有ニ係レリ。木皮ニ刻メルモノハ余市郡川村アイノトミシュスノ出ス所ナリ。板文字ヱ同家ニ傳レリ。六角石片字ハ同地ノ土中ヨリ出ヅ。太古ハ純然タル文通人種ノ居住セシナラム。現今ノアイノハ文字ヲ知ルモノナシ。質朴昏愚ニシテ古事ヲ辨ズルヿ能ハズ。古器物ヲ所有セル所以ヲ問ヘバ寶物ナリ代々讓リ受ケテ秘藏セリト云フノ外ナシ。附言乙一圖裏面ニ在ル横線歐文ニ要スルニ所ノモノヽ如シ。然レドアイノ器物中ニシヨキネキ棒トテ鋒ニ釘アルモノ戰具トスル能ク似タリ。

甲三圖　寸法曲尺

長斜二寸二分
巾一寸五分
中心厚五分五厘
厚二分
厚三分五釐

石質ハ雷斧ニ似テ青色ニ淡黒色ヲ帶ビ光澤アリ。裏面ハ無字ナリ。

甲一圖表面

石質ハ雷石ニ同ジウシテ頗ル光澤アリ色ニシテ處々ニ泡ノ如キ淡粒露ル

斜厚一寸

甲一圖裏面

最厚一寸八分

表裏ハ如何ナル文字ノキヲト假定ス

甲二圖

表面

長三寸一分五厘巾一寸七分

石質ハ眞黒色ニシテ磨キタルガ如ク漆ヲ塗抹セシ樣ナル光澤アリ

甲二圖

裏面

最厚六分

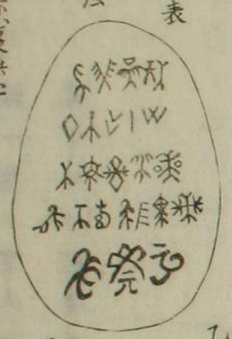
獸皮金字

乙一圖 表

長三寸六分 幅中央ニテ二寸一分 石黒ク 字赤シ

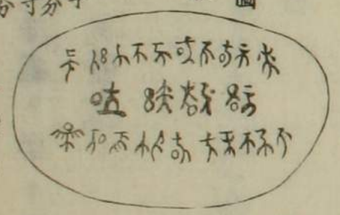
乙一圖 裏

最厚九分五厘



乙二圖 表

長三寸五分 幅二寸四分強 緑厚三分 中厚一寸 石薄黒字赤、裏無字



乙三圖 表

長三十五分 幅二寸一分 厚八分 石淡黒字赤

丙一圖表

長三寸九分、幅九分九厘 中心厚八分 四字金字 石片

丙一圖裏

十一字朱字

丙二圖ハ丙一圖ヲ載ス可キ臺ナリ

丙二圖

斜長三寸 最厚一寸 砂目多キ粗石ニシテ俗ニ子持石ト云ヘル様ノモノナリ

石片 朱字

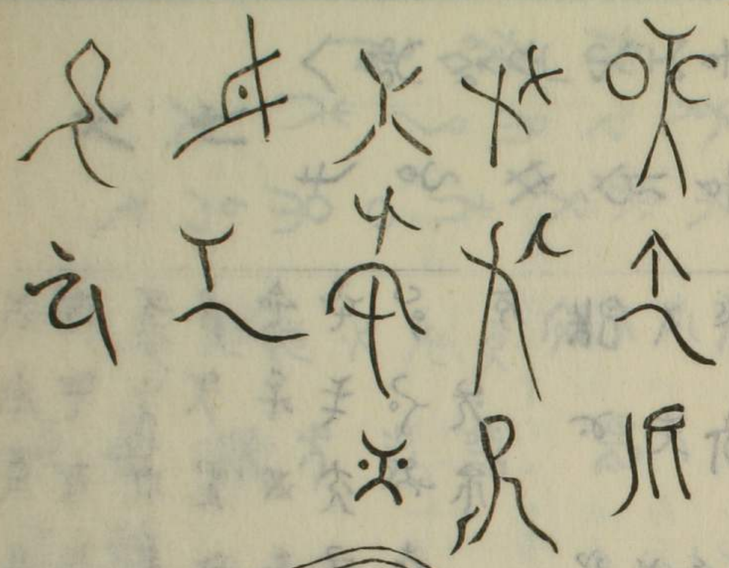
此一葉ノ字大江君所藏ノ字ト甚異同アリ。原書ヲ見ザレバ訂正スルヲ得ズ。

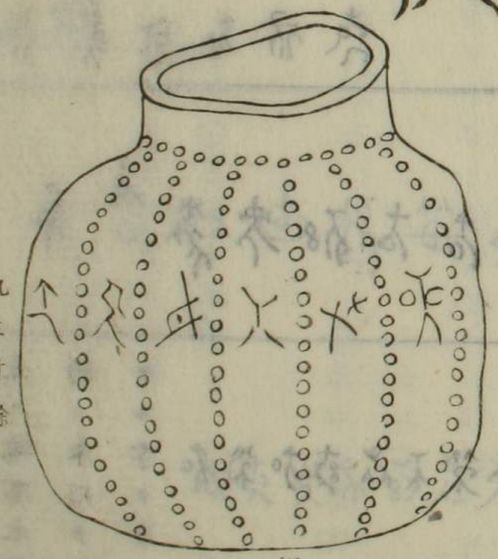
日本古代文字考上巻終

○夷奴字

明治二十一年四月大江卓氏ヲ訪ヒ左ノ蝦夷字數体ヲ得タリ。コレノ數種ノ字ハ莊司平吉氏ノ所藏ニ係レルモノノ由ナリ。字体ハ書寫不充分ナリト。土瓶ノ字ハ大江氏ノ所藏品ヲ蠟摺ニセシナレバ實物ノ字ト異ナルコトナシ。

蝦夷字体變化概略

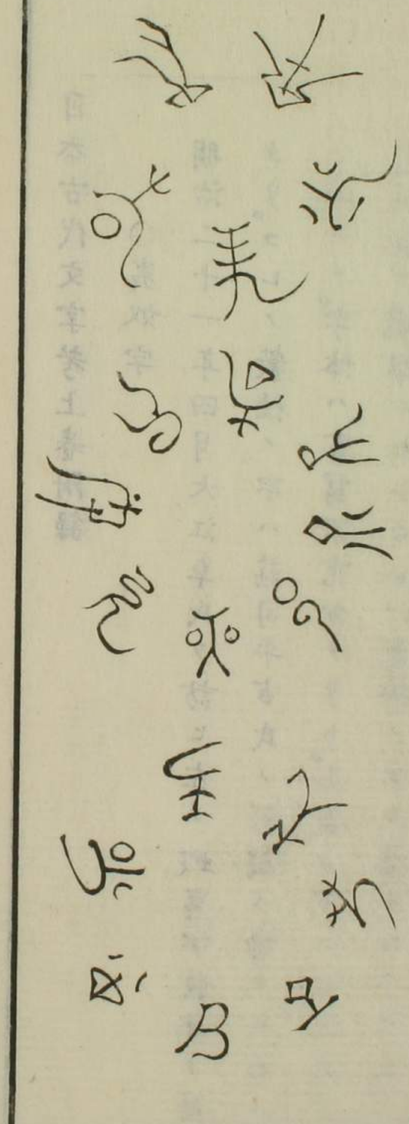




大江氏所藏瓶

シリベシノ國、ヨイチ郡、ヨイチ村開墾場ニテ莊司平吉堀出シタル所ノモノナリ、

凡三寸餘



如此字体變化セシモノナルベシ。此變化セシ字ヲ連合シテ作レル字本篇ニ所謂ル連合法ニ異ナルヿナシ。

[illegible]ハ八木ノ連合[illegible]ハ○○ノ連合[illegible]ハ⊙一木ノ三字連合又[illegible]ハ[illegible]介ノ二字連合[illegible]ハ工⊙ノ連合※ハ××ノ連合此字ノ中ニ漢字ニ類似セルアリ。([illegible]ノ類)然レ𪜈猶能ク彼此比較スルニ漢字ニハ非ルナリ。

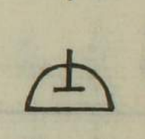
是ハ蝦夷太刀釣ニ朱以テ記セル字ナリ

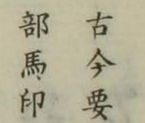
學藝志林十三ニ柳田幾作ノ牧考ニ所載ノ牧馬ノ燒印ノ章ニ糠部（ヌカノベ）ノ印章ヲ載セ又舊幕府所用ノ小金佐倉蘆高等ノ印ヲ載セタリ。畫モアリ。漢字モアリ。其中ニ

笠

琴柱

蔟手

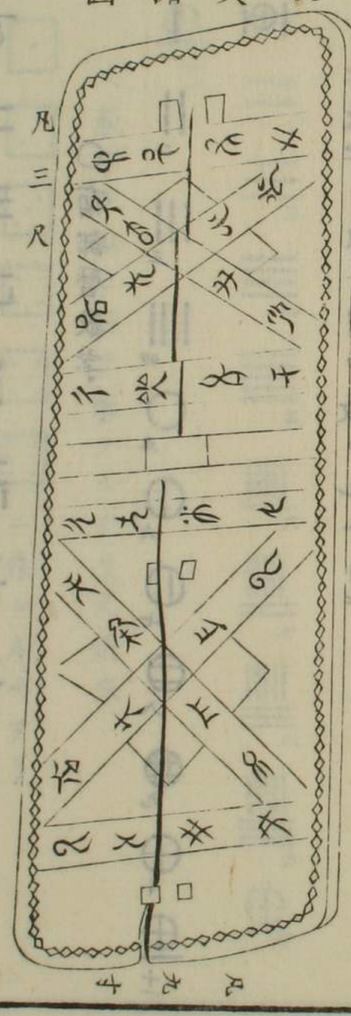

安字


山形

古今要覽所引糠部馬印ノ縮圖

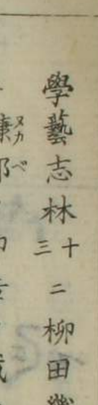
舊幕府所用佐倉小金峯岡等ノ印此等ハ我古字ナルモ量リガタシ。蝦夷字中ニ類似ノモノアリ。琴柱安字等ノ如キハ形ノ似タルヨリ名ケシモノカ。ヘノ山形ノ如キハ商家ノ常ニ用ル徽章ナリ。〆ニモ作ル。之ヲ見バ誰モ山形ト呼ブベシ。山ノ象形字ト云モ可ナリ。

蝦夷楯圖



○數量文字

○阿奈伊知數字


一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

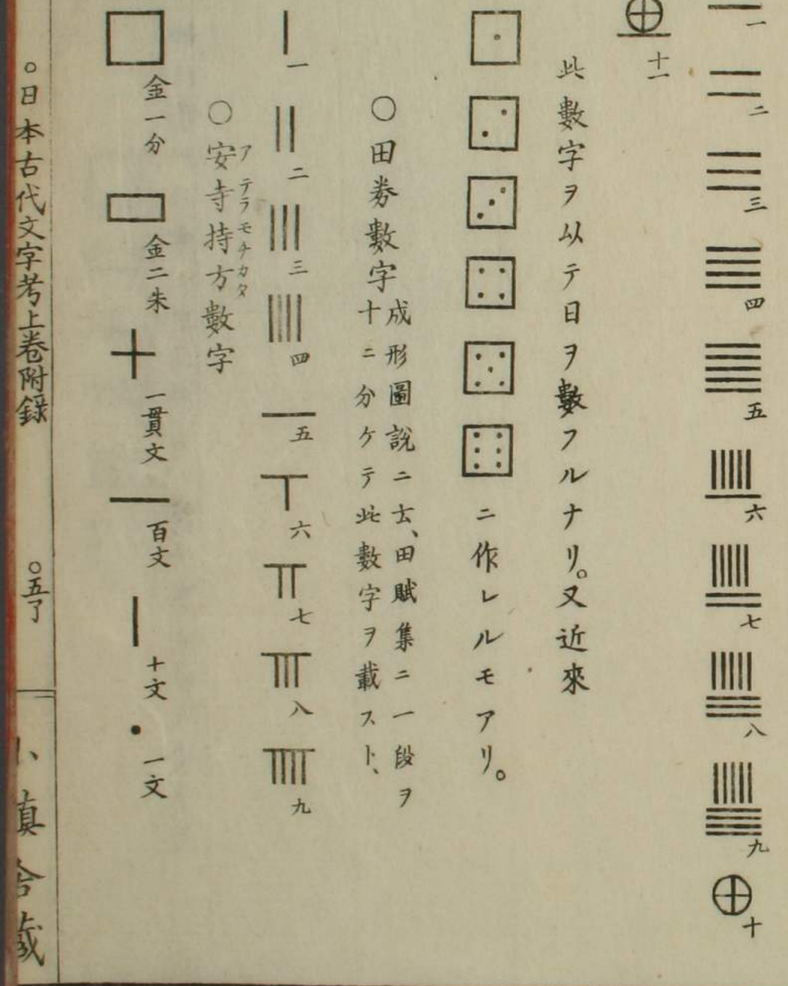
百

千

万

億

○守恆數字



○齋部數字

○南部曆數字

此數字ヲ以テ月ヲ數フルナリ。

此數字ヲ以テ日ヲ數フルナリ。又近來

ニ作レルモアリ。

○田券數字 成形圖說ニ云、田賦集ニ一段ヲ十ニ分ケテ此數字ヲ載スト、

○安寺持方數字 (アテラモチカタ)

金一分　金二朱　一貫文　百文　十文　一文

□□十二冊……

如此書ケバ金一分二朱ト一貫二百三十七文ナリ。